

## 大学文書館で見学会を開催 「総長室事業推進経費による北大教育改革に係る研究成果発表 ワークショップ」を開催

お知らせ

- ・「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成27年度）」の概要について
- ・夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について



1 「社会の中の知の拠点」へ

全学ニュース

- 2 大学文書館で見学会を開催
- 3 「総長室事業推進経費による北大教育改革に係る研究成果発表ワークショップ」を開催
- 3 ワークショップ「学生の思考を深め、発言を促すための問いかけと場づくり」を開催
- 4 第29回北海道大学教育ワークショップを開催
- 5 平成28年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙行
- 5 平成28年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙行
- 6 北大フロンティア基金
- 8 キャンドルナイト in 北大2016を開催
- 8 「北海道大学フィンランドデー～みんなで夏至祭を楽しもう!!」を開催
- 9 「GI-CoREソフトマターグローバルステーションキックオフ国際シンポジウム」を開催
- 9 2016 WinGS Global Networking Award 授賞式を開催
- 10 人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPで若手外国人研究者（DC, PD）向けランチ・トークセミナーを開催
- 11 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで「キャリアパス多様化支援セミナーⅠ 知的財産権」を開催
- 12 化学物質取扱講習会を開催
- 13 保健センターで「保健センター体験見学会～ハートフルキャンパス～」を開催

部局ニュース

- 14 歯学研究科・歯学部が山東大学口腔医学院と部局間交流協定を締結
- 15 環境健康科学研究教育センターがソウル大学校公衆衛生大学院環境健康教育研究センターと部局間交流協定を締結
- 16 6研究所・センター合同で一般公開を開催
- 20 環境科学院で北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催
- 20 経済学部で成績優秀者表彰式を挙行
- 21 会計専門職大学院で日本内部監査協会と共催セミナーを開催
- 22 薬学部で薬害をテーマにFD研修会を開催



第29回北海道大学教育ワークショップ



保健センター  
保健センター体験見学会～ハートフルキャンパス～

- 22 工学系部局で救急救命講習会を実施
- 23 北海道大学病院にてインセンティブ経費表彰式を挙行
- 23 附属図書館「国際機関情報の探し方セミナー」を開催
- 24 物質科学リーディングプログラムが数理連携の第一人者を招き特別講演会とパネルディスカッションを開催
- 25 第27回全国共同利用情報基盤センター長会議を開催

お知らせ

- 26 「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成27年度）」の概要について
- 27 夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について

博士学位記授与 28

レクリエーション

- 31 平成28年度学内職員バドミントン大会（個人戦）の開催

諸会議の開催状況 34

学内規程 34

研修

- 35 平成28年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

表敬訪問 36

人事 37

- 39 新任教授紹介

訃報

- 40 名誉教授 長岡 金吾 氏
- 40 名誉教授 亀井 秀雄 氏



歯学研究科・歯学部  
山東大学口腔医学院と部局間交流協定を締結



環境健康科学研究教育センター  
ソウル大学校公衆衛生大学院環境健康教育研究センターと部局間交流協定を締結



環境科学院  
北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」



工学系部局  
救急救命講習会

表紙：6研究所・センター合同で一般公開を開催（関連記事16頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景④ 噴火湾

## 「社会の中の知の拠点」へ

理事・副学長 かわばた 川端 かずしげ 和重



「国立大学法人は、ここ2年で大きく変わった。その中でも北海道大学は、産業界との連携で最先端を走っている」と、本学の新しい産学連携システムや取組みを6月に経団連本部で紹介したときに、部会代表の方からコメントをいただきました。

本学の産学連携は、従来の「知財獲得・技術移転」という方式から、「組織的な協働」という方式に大きく変わりました。このため、社会に対する大学の組織的なフロントとして、従来の産学連携本部を解体して産学・地域協働推進機構（産地機構と呼ぶ）を平成27年度に新たに設置しました。その結果、方式変更後の2年間で、共同研究費は1.6倍に、また学内における企業研究拠点（後述：「産業創出部門」）の設置は平成28年度に8拠点、企業から派遣等によって学内拠点で共同研究に従事する専任研究員は、本学正規教員の3.5%の増加に匹敵する約70名になりました。この人件費を加えた共同研究費総額を考えると、3年間で3倍に増加したことになります。この急激な増加は国の大規模プロジェクトを受託した結果ではありません。皆さんの「個人型」共同研究のステージを上げ、「組織型」に展開した結果です。

### 組織型協働研究

本学における企業との共同研究費は1件当たり平均で200万円以下です。これは、大半の共同研究が企業研究者と大学研究者の個人レベルの研究であることを意味しています。「知財や成果が出たのに、企業で事業化展開が進まない」また、「学会等で注目され多くの企業が少額の研究費を提供するが、人の雇用ができないので本来の独創的な研究時間が削られていく」と感じられる方も多くおられると思います。海外においては、企業が大学に対して多額の

共同研究資金を投入する大きな要因は、その研究が個人レベルではなく組織レベルであることに起因します。一般に「組織型」共同研究費は「個人型」の10～100倍の資金が投じられています。組織型というのは、あるレベルを超えたテーマを基に、大学が窓口となりプロジェクトや資金管理等のマネージメントを企業とともに行うということです。さらに、企業と大学のトップが話し合い、イコールパートナーとして長期的な信頼関係を築き、研究テーマの展開のみならず、資金、知財、マネージメント、研究者の配置も含めて両者が持続可能な形で協働する体制を構築します。このような協働ができる企業とのみ組織型協働研究を行います。ここが従来の包括連携とは異なる点です。

### 産業創出部門制度

上記の「組織型」を推進する制度で、特徴は次の5つです。①専従研究員を雇用・派遣し研究拠点を学内に構築する。②研究遂行のために、大学及び企業からマネージャーを配置する。大学と企業における研究者とマネージャーの4者の協働によって、研究のステージアップや資金配置等のマネージメントを行う。③拠点設置は、北キャンパス産学連携ゾーンもしくは各部局。対外的窓口は産地機構で行い、部局と連携して推進する。④知財は、実施企業において主に展開し、より速く研究成果が社会実装され、新たな展開を生むことを最優先する。⑤大学、企業が持続可能なように研究費やマネージメント経費等の負担を両者の信頼のもとトップレベルで共通理解を持つ。

これらの趣旨を理解していただき、さらに活用・発展させることで、北海道大学の次のランドマークを皆さんと共につくりあげたいと思います。興味を持たれた方は、産地機構の相談窓口にご連絡ください。

## ■全学ニュース

# 大学文書館で見学会を開催

大学文書館は、本年2月、国による「国立公文書館等」指定に向けた準備の一環として、旧留学生センター建物へ移転し、歴史的資料の収蔵や展示の準備を進め、4月から一般の方々にも来館いただいています。

6月29日(水)、大学文書館を学内の方々にも広く利用していただくため、役員、部局長、事務系職員の役職者約50名をお招きし、見学会を開催しました。

見学会開催にあたり、新田孝彦館長から、平成17年5月1日の設置から現在までに年間で1,000人を超える一般の利用者が訪れていること、学内においては「ミッション再定義」の際に、

多くの部局等に貴重な本学の歴史的資料を提供できたこと等の活動報告がありました。

山口佳三総長からは、「大学文書館が担っている、本学に関わる資料の収集、保存及び歴史的研究という使命は、日本の高等教育史の発展にとって、極めて高い学術的意義がある。それは、本学のアイデンティティの確立とともに、存在意義と社会的使命を明確化することに貢献するものだとも言える。『北海道大学近未来戦略150』の一つに、『北海道大学は、戦略的な広報活動を通じて、教育研究の成果を積極的に発信し、世界に存在感を示す』という目標を掲げており、学識と

知見により、本学の歴史資産を様々な方法で後世に伝えるため、大学文書館が広報活動の拠点となるよう、全学が一体となって協力していきたい」との言葉が寄せられました。

その後、出席者は2班に分かれ、部局等からの資料を収める収蔵庫や閲覧室、また札幌農学校時代の貴重な原資料が展示されている沿革展示室を、それぞれ井上高聡准教授と山本美穂子技術専門職員による説明のもと見学し、熱心に質問をしながら、貴重な資料等に見入っていました。

(総務企画部総務課、大学文書館)

大学文書館 住所：〒060-0808 札幌市北区北8条西8丁目 クラーク会館西隣  
電話/FAX：011-706-2395 E-mail：archives@general.hokudai.ac.jp  
ホームページ：http://www.hokudai.ac.jp/bunsoyo/  
開館日時：平日 9:30～16:30 利用時間：平日 9:30～16:30  
閲覧室の受付時間：平日 9:30～12:00, 13:00～16:30

※1階展示ホールにて常設展示「北大生の群像」, 「新渡戸稲造と遠友夜学校」を開催中です。

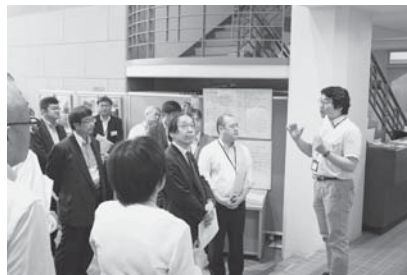
開館時間中、どなたでもご覧いただけます。

※大学文書館では、本学の歴史に係る各種資料を収集・整理し、沿革資料として大切に保存しています。

資料に関する情報や、ご寄贈などに関するご一報をお待ちしています。お問い合わせ・ご相談などは、大学文書館までお願いします。



挨拶する山口総長



展示ホールについて説明する井上准教授(右側)



充実した収蔵スペースを紹介する山本技術専門職員

## 「総長室事業推進経費による北大教育改革に係る研究成果発表ワークショップ」を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、6月8日（水）に、情報教育館スタジオ型多目的中講義室において、「総長室事業推進経費による北大教育改革に係る研究成果発表ワークショップ」を開催しました。

本ワークショップは、平成27年度に教育改革室が公募した総長室事業推進経費による「教育プログラムの開発研究」で採択されたプロジェクト研究の成果を全学的に共有し、より広く活用することを目的として開催したものです。各プロジェクト研究の代表者による研究報告と併せて、参加者全員が全学教育、学部教育及び大学院教育の改善について議論する時間を設け、本学教職員37名が参加しました。

当日は、本ワークショップの発案者である新田孝彦理事・副学長の挨拶に始まり、10名の研究代表者がそれぞれの研究成果について、各自8分の発表時間を使い、充実した内容の発表を行いました。その後、発表内容や本学の教育に関する課題などについて活発な質疑応答及び議論が行われました。

総長室事業推進経費による「教育プログラムの開発研究」については、平成27年度をもって終了しましたが、過去の報告書は本学ウェブサイトに掲載していますので、ぜひご覧ください。

◆<http://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/office/education/>

（高等教育推進機構）



新田理事・副学長の挨拶



ワークショップの様子

## ワークショップ「学生の思考を深め、発言を促すための問いかけと場づくり」を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、教職員に対するFDの一環として、6月23日（木）に北図書館セミナールームにおいて、ワークショップ「学生の思考を深め、発言を促すための問いかけと場づくり」を実施しました。

本ワークショップは、学校教育の場における効果的なカリキュラムの編成や授業のあり方について研究を進めている滋賀県立大学人間文化学部の木村裕准教授を講師にお招きし、学生の思考を深め、発言を促すような問いかけを行うための「問いのたて方」とそのような場づくりについて学び、自身の授業ではどのような問いかけ・場づくりを行うことが適切なのかを考えることを目的として実施したもので、本学教職員26名、他大学等の教職員10名が参加しました。

本ワークショップは、講師の木村准教授から、発問の位置づけや発問作りの際の注意点等について説明があり、質問と発問の違いを理解して意図的・計画的に発問を行うことの重要性を学び、参加者はそれらをグループ学習で体験しながら身につけることができました。

事後アンケートでは、「普段意識せず進めがちな授業を意識的に振り返る良い機会になりました」「『質問』と『発問』の違いが分かるようになりました」等の意見が見られ、多くの参加者に好評でした。

高等教育研修センターでは、今後も教職員を対象とした様々な研修を開催する予定ですので、積極的にご参加願います。

（高等教育推進機構）



ワークショップを行う木村准教授



ワークショップの様子

## 第29回北海道大学教育ワークショップを開催



集合写真

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、着任して5年以内の新任教員を対象とした新任教員研修（北海道大学教育ワークショップ）を6月17日（金）・18日（土）の両日、北広島市の北広島クラッセホテルを会場に合宿形式で開催しました。

今年度は、「アクティブラーニング型授業の設計」をテーマに開催し、本学の教員等21名の参加がありました。仮想の授業科目を発案し、そのシラバス作成を通じて、教育の基礎を理解し、授業のデザイン方法、新しい教育手法等を身に付けることを目指しました。

開催にあたり、弐 和順副機構長から挨拶があった後、バスで北広島へ移

動し、早速4グループに分かれてシラバスを作成する研修に入りました。

このプログラムは、一つの課題について「レクチャー」「グループ討論」「成果の発表、全体討論」を1セットとして、3つの課題について行い、参加者はシラバスを具体的に作り上げていく過程を通して、授業の目標・計画・評価方法の3つの基本要素を体験的に学びました。また、各セットの間には自身のシラバスの校正と講師による添削、エクセレント・ティーチャー受賞経験者の先端生命科学研究の田中良和准教授による講演が行われました。

最後に、細川敏幸副センター長から

受講者へ教育ワークショップ修了証書が手渡され、全日程が終了しました。

事後アンケートでは「他の教員と交流できた点や授業の工夫等に関する具体的な事例を知ることができたので良かった」「エクセレント・ティーチャーの講演は非常に興味深く、参考になった」等の意見が見られ、大変有意義なワークショップとなりました。

本ワークショップは、9月、11月にも開催予定ですので、積極的にご参加願います。

（高等教育推進機構）



グループ討論の様子



成果発表の様子



講演を行う田中准教授

## 平成28年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙

6月22日（水）、高等教育推進機構中会議室において、平成28年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙し、6名の学生が受賞しました。

レーン記念賞は1・2年次の英語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、昭和40年から「レーン記念奨学金」として始まり、平成9年からは「レーン記念賞」と名称を改め、今回を含め

369名の学生に授与しています。

授与式には5名の受賞者が出席し、新田孝彦理事・副学長、渡邊洋名誉教授、外国語教育センターの奥聡教授、出口寿久学務部長の列席のもと、奥教授からレーン記念賞の歴史と、本賞に名をいただいているハロルド・Mレーン（Harold M.Lane）先生の功績についての説明がありました。

次いで新田理事・副学長から受賞者へ賞状、記念メダル及び図書カードが授与され、「皆さんには今後も英語力により一層磨きをかけて、国際性豊かで周囲から敬愛される人間を目指していただきたい」との挨拶がありました。

（学務部学生支援課）

### 受賞者

法学部	藤谷和廣
経済学部	富永楓
理学部	中野志保
工学部	小松航樹
農学部	岡田千裕
獣医学部	熱田朱音



受賞者記念撮影



授与式の様子

## 平成28年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙

6月23日（木）、高等教育推進機構中会議室において、平成28年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙し、10名の学生が受賞しました。

宮澤記念賞は、1年次に履修した外国語科目のうち、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及

び韓国語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、今回が第2回目の表彰となりました。

授与式では新田孝彦理事・副学長、鈴木純一外国語教育センター長、出口寿久学務部長の列席のもと、新田理事・副学長から受賞者へ賞状及び図書

カードが授与され、「本賞創設の意義を理解いただき、国際的な視野を持ち、今後ますます活躍していただきたい」との挨拶がありました。

（学務部学生支援課）

### 受賞者

文学部	片平春樹
文学部	村瀬未帆
文学部	小林謙太
文学部	伊藤優衣
文学部	大田智美
教育学部	藤川奈月
教育学部	廣瀬史帆
教育学部	三好大樹
法学部	菅原瑞葉
理学部	大岩和暉



受賞者記念撮影



授与式の様子

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

<b>北大フロンティア基金情報</b>	19,160件	3,253,034,178円
<b>基金累計額</b> （6月30日現在）	教職員の寄附率	37.9%（1,502件/3,962人）

## 6月のご寄附状況

法人等8社、個人855名の方々から32,893,600円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

### 寄附者ご芳名（法人等）

株式会社AIRDO、社会医療法人 延山会、株式会社クレタ、株式会社構研エンジニアリング、有限会社札幌庭園工業、北大42期会

### 寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	相澤 宏修	赤座 壽	朝倉 聡	浅野 賢二	東 剛己	渥美 達也	安部 悟
阿部美恵子	アマガレアゴマアノルガ	荒井 芳孝	荒田 拓	有泉 吉泰	在田 一則	安西 政彦	五十嵐 秀
池田 浩己	池田 慎	板本 孝治	伊藤 晃	伊藤 候輝	入澤 秀次	岩見謙太郎	上田 諭
上田 利文	植松 淳子	宇賀神若人	宇津城美奈子	大久保 亮	太田 直子	大塚 紳	大畑 昇
岡 松彦	小笠原数夫	小笠原奈津美	剛野ジェムス満	岡元 一平	沖 健	奥田 耕司	奥山 耕也
尾郷 賢	小澤 勝光	小内 透	小野塚憲仁	小原 大和	貝瀬 長門	帰山 雅秀	角田 和夫
賀古 勇輝	加藤 園	加藤 将	加藤美津江	金川 眞行	金子豊三郎	鎌田 照章	亀山 梨絵
河本 充司	岸 邦宏	北市 雄士	北川 寛	北村 彰浩	久住 一郎	栗林 俊展	小林 純子
小林 正伸	近藤 和男	近藤 繁俊	近藤 泰理	齊藤 卓弥	齊藤 久	酒井 勝彦	坂岡 博
坂本 容	桜井 謙介	櫻井高太郎	佐々木 隆	佐治 裕	佐藤 栄一	澤田みゆき	三升畑元基
志賀 哲	篠崎紀美江	清水 辰己	清水 智之	清水 康行	清水 幸彦	白土 博樹	神宮 孝広
杉山 隆文	鈴木 貴	鈴木 隆	鈴木 素子	須藤 進	須山 聡	関下 芳明	瀬名波栄潤
瀬山 邦明	高崎 忠信	高橋 昭二	高原 英世	滝沢 正人	竹田 洋介	田嶋 景子	田中 秀佳
丹呉 幹彦	丹治 順	近間泰一郎	土家 琢磨	寺澤 睦	寺田 昌弘	藤内 守	富樫 武弘
豊島 邦義	豊田 威信	中川 伸	中澤 雅紀	中島 由理	永田 剛昭	成田 尚	新川 詔夫
新井田靖郎	西村 敦史	西村 一男	二宮 貴子	野口 豪	野村多歌子	野村 俊夫	萩野 幸男
橋本 直樹	長谷川英司	鉢呂 喜一	服部 康喜	林下 忠雄	稗田 義雄	氷見谷直紀	平野 哲夫
福田 信也	藤井 泰	古田 康	古屋 統	細川 敏幸	細川眞澄男	堀之内 徹	本田 謹一
本田 健	真板 昭夫	前田 珠希	町田 宗正	松岡 雅貴	松岡 理絵	三枝 英之	水落 初雄
三井 信幸	南 隆	毛利 典行	元廣 友美	森川 隆	森本 信夫	森本 裕二	柳生 一自
保本 正美	矢部 一郎	山 公美子	山内 隆嗣	山岸 義和	山崎 寛志	山崎美喜子	山下 啓子
山田 豊	吉岡 正俊	吉田 広志	林 国雄	若槻 百美	渡部 克彦		



## 銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

### （法人等）

株式会社AIRDO, 社会医療法人 延山会, 北大42期会

### （個人）

赤座 壽, 朝倉 聡, 池田 慎, 岩見謙太郎, 上田 諭, 賀古 勇輝, 加藤 将, 久住 一郎, 齊藤 卓弥,  
志賀 哲, 白土 博樹, 鈴木 隆, 鈴木 素子, 関下 芳明, 瀬山 邦明, 高橋 昭二, 丹呉 幹彦, 藤内 守,  
中川 伸, 林下 忠雄, 細川 敏幸, 細川真澄男, 矢部 一郎, 山崎 寛志, 山下 啓子, 山田 豊

## 感謝状の贈呈



苫小牧埠頭株式会社 様（平成28年6月20日）



北洋銀行株式会社 様（平成28年6月20日）

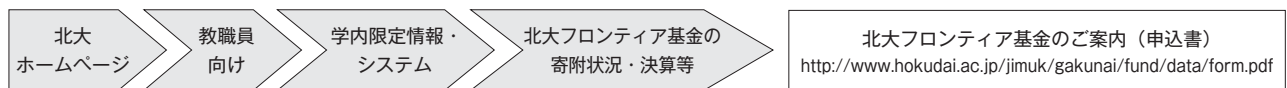


株式会社きのとや 様（平成28年6月28日）

## ご寄附のお申し込み方法

### ① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



### ② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

### ③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

### ④ クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ（<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>）のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

## キャンドルナイト in 北大2016を開催

6月23日（木）に、本学正門周辺及び百年記念会館周辺で“キャンドルナイト in 北大2016”を開催しました。「キャンドルナイト」は夏至の夜にろうそくの光を灯して環境問題を考えようという趣旨のイベントで、「さっぼろキャンドルナイト」に本学は今年で6回目の参加となります。

今回、初めての企画として、前日の22日（水）に「子供の絵で夜を彩ろう」と、幌北児童会館に通う小学生約40人に、キャンドルを覆う紙に絵を描きオリジナルキャンドル作りに挑戦してもらいました。

当日は、午後7時30分から同10時まで、百年記念会館周辺の外灯を消灯し、正門から百年記念会館まで400個のキャンドルを並べて灯しました。特に百年記念会館周辺では、サクシュコ

トニ川の周りや木々の周りにキャンドルを配置した幻想的な雰囲気の中、本学ギターアンサンブル部、学外の音楽団体「森の時間」によるコンサートがあり、家族連れや友達同士などおよそ500名の皆様が穏やかなギターやハンドベルの調べを聞きながら、ゆったりとした時間を過ごしていました。

この夜消灯した外灯の消費電力量はおよそ1.4kWhで、1.0kg相当の二酸化



ギターアンサンブル部の演奏

炭素を削減したことになります。共催した学生団体SCSD（The Students Council for Sustainable Development in Hokkaido University）をはじめ、皆様のご協力のおかげでとても素敵なキャンドルナイトになりました。ありがとうございました。

（サステイナブルキャンパス推進本部、施設部環境配慮促進課）



キャンドルナイトの様子

## 「北海道大学フィンランドデイ～みんなで夏至祭を楽しもう!!」を開催

6月25日（土）、本学ヘルシンキオフィスが主催する「北海道大学フィンランドデイ～みんなで夏至祭を楽しもう!!」を開催しました。

第1部は「フィンランドの暮らしと文化」をテーマに、まず、保健科学研究所の横澤宏一教授による「夏至祭りの紹介」の講演に始まり、本学の卒業生である松岡宗太郎氏（前在フィンランド日本国大使館一等書記官）から3年間のフィンランドでの生活についてお話がありました。その後、フィンランドの民族楽器のカンテレ奏者のあらひろこ氏が様々な大きさ・タイプのカンテレを紹介しながら、伝統音楽を演奏しました。初めてカンテレを見聞き

する参加者が多く、その幻想的な調べに会場はともしリラックスした雰囲気となりました。

第2部は「フィンランドの教育とその成果」をテーマに、ヘルシンキ大学から交換留学生として本学に来ているヨハンナ・コルホネンさんが、自らのフィンランド及び日本での教育体験を日本語で発表しました。次に、フィンランド語の魅力について本学の水本秀明非常勤講師が参加型の講演を行いました。最後に、本学ヘルシンキオフィスの成田吉弘所長が「フィンランドの大学における最近の動向」と題して、フィンランドの高等教育の現状について講演しました。

延べ80名以上の参加があり、参加者からは「フィンランドについて1日で多くを知ることができて楽しかった」「カンテレの演奏や、フィンランド語を声に出して言うことで、フィンランドをより身近に感じられて行ってみたい気持ちが大きくなった」などの感想をいただきました。

その後、講演者と一般の参加者・学生の参加を得て懇親会を開催しました。懇親会出席者は、講演者に質問したり、フィンランドデイを通じて知り合いになった方々と交流を深めたりと、非常に充実した会となりました。

（国際本部国際連携課）



松岡氏による講演の様子



カンテレの演奏



成田所長による講演の様子

## 「GI-CoREソフトマターグローバルステーション キックオフ国際シンポジウム」を開催

国際連携研究教育局（GI-CoRE）では、既存の3つのグローバルステーションに加え、本年4月に新たに、ソフトマター、ビッグデータ・サイバーセキュリティ、北極域研究の分野でグローバルステーションを設立しました。第4のグローバルステーションとなったソフトマターグローバルステーションでは、6月13日（月）～15日（水）に海外研究ユニット教員10名及び国内のソフトマター研究のトップランナーを一同に招き、キックオフ国際シンポジウムを開催しました。

山口佳三総長からの開会挨拶の後、文部科学省高等教育局国立大学法人支援課の水見谷直紀課長を来賓挨拶に迎え、フォーラムが開幕しました。

高齢化、環境汚染、資源不足など社会が直面している課題解決に資する次世代基盤材料であるソフトマターの基礎を研究し、先端ソフトマターの開発・応用を行い、当該分野の国際的リーダーを育成するため、同グローバルステーションで研究教育活動が行われます。

米国からはノースカロライナ大学

チャペルヒル校、デューク大学、ノースカロライナ州立大学、アイオワ州立大学、フランスからはパリ市立工業物理化学高等専門大学、ピエール・エ・マリーキュリー大学、パリ・デイドロ大学の研究者が参加し、本学からは、先端生命科学研究院、医学研究科、電子科学研究所の教員や学生が加わり、講演やポスター発表を行い、今後の関係深化が約束されました。

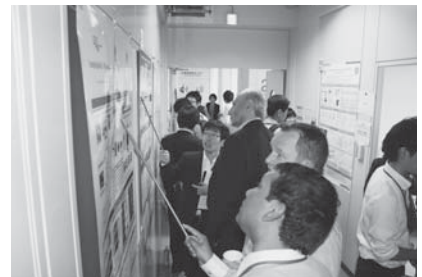
（国際連携研究教育局）



水見谷課長の挨拶



記念撮影



ポスター発表の様子

## 2016 WinGS Global Networking Award 授賞式を開催

6月10日（金）にファカルティハウス「エンレイソウ」会議室にて、“2016 WinGS Global Networking Award 授賞式”を開催しました。

WinGS（Women in Global Science）Global Networking Award（グローバルネットワーキング賞）は、本学が研究大学強化促進事業に採択になったことを受けて2014年度より実施しており、優秀な女性教員（准教授以下（特任含む））を表彰し、副賞として国際的ネットワーク形成を促進するための費用を補助するものです。今年度は13名の応募があり、学内審査委員会による審査の結果、Sharon J.B. Hanley助教（医学研究科）、荒木敦子准教授

（環境健康科学研究教育センター）の2名を受賞者として決定しました。受賞者には女性研究者支援室室長の望月恒子副学長より表彰状が手渡され、その後、国際的ネットワーキングの意義

や研究者の人材育成、多様な研究者を支える研究環境について意見交換が行われました。

（人材育成本部）



記念撮影

# 人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPで若手外国人研究者 (DC, PD) 向けランチ・トークセミナーを開催

人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPでは、若手外国人研究者(DC, PD)向けランチ・トークセミナー「PhD Lunch Talk」を今年度より開始しました。この新規セミナー・シリーズは、博士人材の研究力を幅広い分野に応用するための気づきを与えることを目的としており、日本に滞在する外国人などの外部講師を招いて、仕事や人生の転機について一緒に昼食をとりながら気軽に話を聞く、という形式を取っています。

第1回目となる5月13日(金)のセミナーには、10部局、19カ国から34名のDC, PDが参加しました。講師には札幌在住30年で、外国人向けメルマガHokkaido Insiderを主宰しているKen Hartmann氏をお迎えし、日本で暮ら

す外国人ならではの視点で文化、言語、風習の違い等について伺ったほか、様々な転機を乗り越えて異国で生活する、という実体験をお話いただいたことで、アカデミア以外の経験を持たない外国人DC, PDからは大変参考になった、という感想が寄せられました。

6月9日(木)には第2回目のセミナーを開催し、9部局、14カ国から22名の参加がありました。国際本部の協力を得てセミナー会場に同本部2階の会議室を使用したこと、並びに昼休み時間を利用し軽食を用意して行ったことなどが奏功して、日頃顔を合わせる機会が少ない多様な人々が一堂に集まりました。講師には、オウル大学のJuha Tuisku氏を迎え、留学生からそ

のまま日本に滞在して大学間連携や産学連携のプロジェクトに従事している若手の先輩、という視点でのお話を伺いました。

7月20日(水)には千歳科学技術大学のOlaf Karthaus教授を招いて開催しました。9月9日(金)には弁護士Stuart Walker氏、12月には札幌米国総領事館のJustin Tull領事をお迎えする予定です。

I-HoPでは今後もこのセミナー・シリーズを随時行っていく予定です。興味のある方は人材育成本部のホームページをぜひご覧ください。

◆<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

(人材育成本部)



Hartmann氏の講演に聞き入る若手外国人研究者



昼食をとりながらJuha氏の講演を聞く参加者

## 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで 「キャリアパス多様化支援セミナーⅠ 知的財産権」を開催

人材育成本部S-cubicでは、6月21日（火）に工学部オープンホールにて「キャリアパス多様化支援セミナーⅠ 知的財産権」を開催しました。

キャリアパス多様化支援セミナーとは、若手研究者のキャリアパスの多様化について考えるプログラムです。博士のキャリア選択の多様性について、本セミナーや企業研究所視察等のプログラムにより、具体的に体験的に学びます。

今回の知的財産権では、「企業の研究開発と知的財産権：理工系のキャリアとしての知財マン」と題し、株式会社ノエビア 執行役員 知財・品質保証部長の大原 登氏、積水化学工業株式会社 高機能プラスチックカンパ

ニー 知的財産部係長の正原和幸氏、日本電気株式会社 SI・サービス市場開発本部技術戦略部主任の檜山ゆり子氏の、知財に携わる現役3名の方々にご自身のキャリアや若手研究者に期待することについてご講演いただきました。

若手研究者の参加は34名で、今回はテレビ会議システムを使用し、函館キャンパス・水産科学院や、科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業「連携型博士研究人材総合育成システムの構築」の連携大学の一つである名古屋大学から助教の参加がありました。

若手研究者に対し、本セミナーの受講前後に「知的財産あるいは知的財産業界・弁理士への理解度」についてクリッカー調査を行ったところ、「具体

的に理解」が受講前の4%から受講後には25%へ、また「ある程度理解」が受講前の22%から67%へ、「あまりよく理解できない」が61%から4%へ、そして「まったく理解できない」が13%から4%へと変わり、セミナー受講後の知的財産に対する理解度が大幅に上がり、効果的なセミナーを実施することができたと言えます。

人材育成本部では今後も若手研究者の実践力を高める事業に注力して参ります。なお、人材育成本部の今後のイベントに興味のある方はホームページをご覧ください。

◆<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

(人材育成本部)



札幌キャンパス



函館キャンパス



パネルディスカッション

# 化学物質取扱講習会を開催

本学では国立大学法人北海道大学化学物質等管理規程に基づき、化学物質を取り扱う全ての人を対象として「化学物質取扱講習会」を実施しています。今年度は6月までに札幌キャンパスと函館キャンパスで計24回開催し、延べ1,800人を超える受講者が集まりました。

講習会では、化学物質の安全管理の基本となるハザードとリスクの考え方をはじめ、ハザードと法規制との関係、SDS（Safety Data Sheet；安全データシート）とGHS（Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals；化学品の分類および表示に関する世界調和システム）の基本的な活用法、化学物質の取扱いに係わる代表的な法規制と学内ルールの解説、排水への有害物質流出防止の留意事項、実験廃液の処理に際しての心構えと必要な手続きまで、実際に国内で

起こった事故事例や映像資料等も交えながら、化学物質管理に関する幅広い内容に触れました。受講終了後のアンケートでは「わかりやすかった」「勉強になった」といった好意的な意見が大半を占めており、例年通り現場での化学物質等の取扱いに役立つものと確信しています。

なお、今年度は、主に教職員など本講習会の内容を十分理解している人を対象に、法規制や学内ルール等の前年度からの変更点と特定の重要テーマ（今年度はGHSによるハザード精査方法）の解説に絞った45分間の「中上級版」の講習会を開催しました。新たな試みでしたが予想以上に好評だったことから、今後も中上級版の定期開催を考えています。

(安全衛生本部)



講演する川上貴教授（安全衛生本部）



会場の様子

## 講習会の内容

1. 実験室で化学物質を取り扱う際の注意点
2. 廃液の取扱いについて

1	5/19 (木) 10:30~12:00	農学部 4F 大講堂
2	5/25 (水) 14:45~16:15	北キャンパス・創成 創成棟5F 大会議室
3	5/26 (木) 13:00~14:30	理学部 5号館 大講義室
4	5/26 (木) 14:45~15:30	理学部 5号館 大講義室 【中上級版】
5	5/30 (月) 14:45~16:15	歯学部 講堂
6	5/31 (火) 9:30~10:15	医学部 臨床講義棟2F 大講堂 【中上級版】
7	5/31 (火) 10:30~12:00	医学部 臨床講義棟2F 大講堂
8	5/31 (火) 14:45~16:15	薬学部 臨床講義室
9	6/7 (火) 10:30~12:00	理学部 5号館 大講義室
10	6/7 (火) 13:00~14:30	地球環境科学研究所 D棟201室
11	6/8 (水) 9:30~10:15	工学部 オープンホール 【中上級版】
12	6/8 (水) 10:30~12:00	工学部 オープンホール
13	6/8 (水) 14:45~16:15	低温科学研究所 講堂
14	6/9 (木) 14:45~16:15	薬学部 臨床講義室
15	6/14 (火) 9:00~10:30	工学部 オープンホール
16	6/14 (火) 14:45~16:15	保健科学院 E棟1F 多目的室
17	6/15 (水) 13:00~14:30	農学部 4F 大講堂
18	6/16 (木) 9:30~10:15	北キャンパス・創成 創成棟5F 大会議室 【中上級版】
19	6/16 (木) 10:30~12:00	北キャンパス・創成 創成棟5F 大会議室
20	6/16 (木) 16:30~18:00	獣医学部 講堂
21	6/17 (金) 14:45~16:15	工学部 オープンホール
22	6/23 (木) 14:45~16:15	函館キャンパス 講義棟大講義室
23	6/24 (金) 9:30~10:15	函館キャンパス 講義棟大講義室 【中上級版】
24	6/24 (金) 10:30~12:00	函館キャンパス 講義棟大講義室

## 保健センターで「保健センター体験見学会～ハートフルキャンパス～」を開催

保健センターでは、4月4日（月）～6日（水）の3日間、同センターにおいて、「保健センター体験見学会」を開催し、56名が来場しました。

本見学会は、新入生が入学する春と秋に、保健センターの活動や存在意義を広め、新入生の健康管理に大きく貢献すること、そして当センター職員と新入生と触れ合い交流を深め、健康上の相互理解を深めることを目的に企画しています。これまで、平成27年4月と10月（新入留学生向け）に開催し、今回で通算3回目となりました。

会場には3つのコーナーが設けられました。「栄養相談」のコーナーで

は、自炊初心者へのワンポイントレッスンが行われました。本学では、全国各地から学生が集まるという特色があり、一人暮らしを始める学生が多く見られますが、事後のアンケートでも、「とてもためになった」「一人暮らしをする上で参考になった」など、かなり好評でした。「アルコールパッチテスト」では、アルコールが飲める族か飲めない族かという、自分の体質を知ってもらいました。こちらも、「自分の適性がわかった」「これからお酒に触れる機会が増えるため活かせる」などの感想が多くあり盛況でした。「リラクゼーション法」では、「ここ

ろ」と「からだ」のリラックス法のDVDを上映しました。ここでは、「緊張しやすいのでためになった」などの感想がありました。また、聞いて見てクイズに答えようという、恒例のスタンプリーも行われました。今回、参加者の皆さんの真剣な雰囲気や熱心さに、スタッフも熱が入りました。アンケートでは、ほぼ全員の参加者が、「満足・やや満足」と回答していました。今後も、更に充実した見学会を目指して、企画・実施していく予定です。

（保健センター）



「栄養相談」のコーナー



「アルコールパッチテスト」のコーナー



リラクゼーション法についてのDVD上映



利用案内の掲示を学生に説明する職員（左）

## ■ 部局ニュース

# 歯学研究科・歯学部が山東大学口腔医学院と部局間交流協定を締結



調印式後の参加者集合写真

歯学研究科・歯学部では、6月13日（月）に山東大学口腔医学院と部局間交流協定を締結しました。横山敦郎歯学研究科長、網塚憲生教授及び長谷川智香助教が中国済南市の山東大学に赴き、山東大学からは徐欣口腔医学院院長、趙華強口腔医学院共産党委員会書記、熊世江山東大学口腔医学院副院長、李敏啓教授をはじめとする15名ほどの出席者のもとで調印式が行われました。

山東大学は歴史の古い大学であり、その前身は1901年に創立した山東大学堂で、京師大学堂に次ぐ中国で2番目に古い国立大学です。現在、中国の国内主要第一級大学に選ばれており、全学生数は5万人以上にのぼる教育部直属重点総合大学です。口腔医学院の前身は山東医科大学の口腔係でしたが、2000年に現在の山東大学口腔医学院として発展してきました。

歯学研究科と山東大学口腔医学院は、

2013年から日本学術振興会（JSPS）・中国国家自然科学基金（NSFC）の二国間交流事業に採択されており、国際共同研究及び若手研究者交流を活発に推進してきました。

今後、山東大学と大学間交流協定締結へ向けて、さらに国際共同研究及び学生交流の実績を積み上げてゆく予定です。

（歯学研究科・歯学部）



調印式での横山研究科長（右）と徐口腔医学院長



調印後に握手を交わす横山研究科長（右）と徐口腔医学院長



## 環境健康科学研究教育センターがソウル大学校公衆衛生大学院 環境健康教育研究センターと部局間交流協定を締結



調印後の記念撮影

環境健康科学研究教育センターは、6月29日（水）、ソウル大学校公衆衛生大学院環境健康教育研究センター（韓国）と部局間交流協定を締結しました。本学ファカルティハウス「エンレイソウ」にて執り行われた調印式には、ソウル大学校公衆衛生大学院長のHo Kim教授に加えて、Kyungho Choi教授、Kiyoung Lee教授、Sungkyoon Kim教授、Chungsik Yoon教授の5名

が、本センターからは小笠原克彦センター長をはじめ10名が出席しました。平成22年の本センター設立以来、初めての部局間交流協定締結となりました。

本センターとソウル大学校公衆衛生大学院環境健康教育研究センターとは、平成26年のソウル大学校－北海道大学ジョイントシンポジウムでの分科会開催を機に、研究者交流を進めてきました。本学とソウル大学校はすでに



協定書を取り交わす小笠原センター長（左）とKim学院長

大学間交流協定を締結していますが、環境健康科学領域でのより広範囲な研究交流や共同講義などの教育交流をさらに活発に行うために、新たに部局間交流協定を締結したものです。今後の連携強化が期待されます。

（環境健康科学研究教育センター）

## 6 研究所・センター合同で一般公開を開催

創成研究機構、低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所、スラブ・ユーラシア研究センター、産学・地域協働推進機構は、北大祭期間中の6月4日（土）に合同で一般公開を開催しました。多くの方に6部局全てを見て回って欲しいという願いを込めて、今年度も合同シールラリーを行いました。その結果、冷たい風の吹く天候にも関わらず、延べ4,070人以上の方に参加していただきました。

（創成研究機構、低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所、スラブ・ユーラシア研究センター、産学・地域協働推進機構）

### 創成研究機構

創成研究機構では、「創成研究機構一般公開」を開催しました。今年新たに触媒科学研究所や人獣共通感染症リサーチセンターが創成研究機構の企画に加わりました。当日は子ども連れのご家族を中心に幅広い年齢層の方が訪れ、来場者数は約825名でした。

創成科学研究棟1階レストランポプラで実施した「実験ショー！身近な世界は不思議がいっぱい！」では、理学研究院の朝比奈健太博士研究員が身近にある材料や道具を使って、色々な実験を紹介しました。小さなお子さんも沢山集まり、ブーメランやゲルの実験で大いに盛り上がりました。

サイエンス・トーク「縁の下の力持ち“触媒”の秘密を探る」では、触媒科学研究所の朝倉清高所長が様々な場面で活躍する触媒について映像を交えて紹介しました。講演終了後には多くの質問があり、参加者は触媒が意外と

身近で役立ついることに感心していました。

創成科学研究棟1階エントランスホールの「展示&体験コーナー」では、特定研究部門のゲン・チェンビン研究室による「ゲルが来た」、プロジェクト研究部門の宮崎忠昭研究室による「乳酸菌ウォッチ」の展示、創成研究支援室による「北大ロゴ入りのオリジナル紙飛行機クラフトコーナー」、また、人獣共通感染症リサーチセンターからも「人獣共通感染症の克服を目指して」の展示がありました。各展示コーナーの前には開始から終了時間を過ぎるまで絶えず来訪者があり、夢中で実験・観察をする子どもたちや、展示担当者に熱心に質問をする方々の姿が見られました。

また、見学ツアーとして、小惑星探査機「はやぶさ」のサンプル分析を行った「同位体顕微鏡」見学、創成研

究機構の最先端装置が見られる「オープンファシリティ」見学のツアーを各3回実施しました。各回とも早くから定員に達する盛況ぶりでした。

創成科学研究棟2階ガラス工作室（触媒科学研究所）では、「君もテクニシャン－理化学研究を支えるガラス細工」と題してガラス工作体験を実施し、参加者は自分で作ったオリジナルのマドラーをお土産に持ち帰りました。

参加者へのアンケートでは、「子どもと一緒に楽しく勉強できることが嬉しかった」「北大マークの入ったオリジナル紙飛行機を作ることができて良かった」などのご感想をいただき、対応した教職員からは「子どもたちの笑顔が活力になった」などの声があり、今後の研究の励みとなったようでした。

創成研究機構では、今後も、市民の皆様と研究者が触れ合える機会の提供に努めて参ります。



北大ロゴ入り紙飛行機を作る様子



ガラス工作室でオリジナルマドラーを作る様子

## 低温科学研究所

低温科学研究所では、多くの方々に研究所にお越しいただけるよう、大学祭期間中に一般公開を実施しています。6研究所・センターが合同で実施したシールラリーに加えて、大学祭で実施されたスタンプラリーにも参加しました。当日は、小雨が降る肌寒い天候でしたが、かねてより見学を楽しみにしてくださっていた市民や、子ども連れのご家族、小学生・中学生・高校生の団体等多くの方にお越しいただき、来場者数は約850名に達しました。

企画では、小さなお子さんにも喜んでいただけるものから、高校生以上に焦点を合わせた比較的高度な実験・展示、さらに、日常では体験できない-50℃の南極疑似体験まで、計9件を実施しました。特に参加型の実験・体験は大人気で、待ち時間がでるコーナーもあり、お子さんのみならず、お

父さんやお母さんにも真剣に取り組んでいただきました。また、-50℃の南極疑似体験には、開始と同時に訪れてくださった方も多数おり、超低温を体感していただくとともに、南極の氷床コアを実際に見ていただきました。さらに、展示コーナーでは、各コーナーを回り、熱心に説明を聞いて質問して下さる方も多く、終日大盛況でした。

回答いただいたアンケートには「普段知ることのできないことに触れて楽しかった」「とても分かりやすい説明で理解が深まりました」など嬉しいご意見をいただきました。

実験や展示等を通して、多くの方々に低温科学の面白さを知っていただくことはもちろん、私達も市民の皆様に研究の内容を分かりやすくお伝えすることを学ぶ大変貴重な時間を過ごすことができました。アンケートの結果を

踏まえ、来年度も充実した一般公開ができるよう努力していきます。



「環オホーツクってどんな場所？」展示コーナー



南極疑似体験

## 電子科学研究所

恒例の電子科学研究所一般公開を、電子科学研究所棟（北キャンパス総合研究棟5号館）で行いました。小雨がぱらつくお天気ではありましたが、1,180名を超える多くの市民の方々にご来訪いただきました。特に小さなお子さんを連れたお母さんやお父さんの姿が目立ちました。

一般公開では、光・物質・生き物・数理・環境という5つのテーマに関する13の体験型の展示やサイエンス・トーク（市民講座）を行いました。来場者からは「小学生の子どももかなり興味を持っていて、特に下の子は北大に行きたいというモチベーションが上がったようです」「一般公開のために名古屋から来ました。子どもを持つ親には大変魅力があります」「魅了され

る工夫が随所になされており、家族の好奇心が満たされました。説明も丁寧で、専門性の高いものをわかり易く教えてください、有意義な時間を過ごせました」といった嬉しいご意見をいただきました。午後からのサイエンス・トークでは、「世界の窓から見えてくる技術革新」と「生きた細胞の中を探るナノテクノロジー」と題し、研究最前線を紹介しました。大人は勿論、子どもたちからの質問もあり、和やかな中で数多くの方に楽しんでいただきました。

北大祭で賑わう中央キャンパスから多数ご来場いただけるよう、ペロタクシー（自転車タクシー）4台を、北18条門から電子科学研究所新棟まで無料運行しました。札幌市教育委員会、

北海道教育委員会、北海道私立中学高等学校協会から後援をいただくとともに、小樽市、江別市、石狩市、恵庭市の教育委員会にご協力いただき、総計500を超える学校にポスターを事前配布しました。北大祭とも連携して、北大祭のパンフレットやウェブにも掲載した他、スタンプラリーにも参加しました。6研究所・センター合同の一般公開については「家族皆で楽しめました！来年も予定を組んでじっくり体験させていただきます」といったご意見をいただきました。会場の玄関前は、終日、シャボン玉に興じる子どもたちで賑わい、研究紹介の枠を超えて、研究所と市民の交流が深まりました。また、その様子は、北海道新聞の取材を通じて、お茶の間にも届きました。



「光で色がついたり消えたり」実験に取組む子どもたち



子どもたちに大人気のペロタクシー

遺伝子病制御研究所

遺伝子病制御研究所は、市民、特に中学生・高校生に向けて一般公開を行いました。5回目の開催となる今年は392名の方々にご来場いただきました。

生命科学の最先端研究を紹介する「サイエンス・トーク」では、3名の先生がそれぞれ「正常細胞がガン細胞を駆逐する!」「われわれは免疫系が無くても生きていけるか?」「乳酸菌による肥満、ウイルス感染、ガン、リウマチの予防効果」というタイトルで講演を行いました。今回の体験学習コーナーでは、過去の来場者アンケートでいただいた「実験を体験できるコーナーをもっと増やしてほしい」という意見を取り入れ、各研究室での体験学習の時間を大幅に増やしました。各研究室では研究内容についてスタッフがわかりやすく解説し、来場者が研究を実際に体験しました。また、パネル展示コーナーではそれぞれの研究室

の最新の話題を図解説明し、来場者と対話することで興味を持ってもらうことができました。

私たちにとって一般公開は“アウトリーチ活動”の一つです。多くの市民の皆様へ日頃の研究成果を説明することにより、当研究所の社会的な役割を広く認識していただけることは喜びであると共に、多くの市民の皆様からの声は今後の研究を進めるうえでの活力となりました。今回は中学生・高校生に生命科学への興味を持ってもらうことに重点を置き、将来研究者になるという道があり、それに興味を持っていただくことが、今後の生命科学研究全体の底辺拡大にもなると考えました。今後も一般公開のあるべき姿を考え、社会に対し適切に情報を発信し、市民の皆様が研究や研究者を身近に感じることが出来る場を提供することを心がけていきます。また、市民の皆様から

お答えいただいたアンケート結果を踏まえ、来年度も充実した一般公開ができるように努力していきます。



サイエンス・トーク



実験デモンストレーション

スラブ・ユーラシア研究センター

スラブ・ユーラシア研究センターは、「ユーラシアがわかる!スラ研がわかる!」と題し、一般公開を行いました。朝から曇り空で天候に不安がある中でしたが、昨年度とほぼ同数の327名の来場者がありました。

一般公開では、センタースタッフによる最新の研究成果に関する展示とサイエンス・トークを行い、また、毎年恒例となっている、大人から子どもまで楽しめるスラブ・ユーラシア地域の絵本の展示、アニメ上映を行いました。本年度は、ウズベキスタンをフィールドとする文化人類学者2名がセンターにスタッフとして在籍しており、ウズ

ベキスタンの絨毯の上に座りながら、現地で購入した乾燥果物やピーナッツをつまみ、お茶を飲んで楽しみながら中央ユーラシアのウズベキスタンの文化を知るといふ、「ウズベキスタンのお茶会」を行いました。広い構内を歩いてめぐってこられた来場者の方々にお茶会企画は大変好評でした。

サイエンス・トークは、Wolf David 教授による「スラブ・ユーラシア研究センターはなぜ北大につくられたのか? : センター誕生の歴史」、菊田 悠助教による「魅惑のコバルトブルー : ウズベキスタンのリシタン陶芸現代史」という2本立てでした。菊田

助教はリシタン陶器の実物展示も行い、パネル展示だけでなくお茶会企画とも連動させる形で、来場者の関心を引いていました。Wolf教授によるスラ研の歴史に関する講演に対しては、スラ研開設(昭和30年)当時の国際情勢や国内の思想状況との関連についてなど鋭い質問が寄せられました。

本行事は6研究所・センター合同一般公開の枠組の中で行われましたが、幹事役を務めた電子科学研究所をはじめ、共催した他の研究所に感謝申し上げます。



サイエンス・トークの様子



センタースタッフがウズベクの民族衣装でおもてなし

## 産学・地域協働推進機構

昨年に引き続き、産学・地域協働推進機構一般公開を、フード&メディカルイノベーション（FMI）国際拠点棟で行いました。曇天の中、500名を超える市民の皆様にご来訪いただきました。特に小さなお子さん連れのお母さんやお父さんの姿が多く見受けられました。

一般公開では、本学から社会実装された様々な研究成果、本学COI「食と健康の達人拠点」の研究成果などの紹介とともに、野菜などの色素がpHによって色彩変化する性質を利用した「お絵かき体験」やコンブなどの褐藻類に含まれるアルギン酸がカルシウム

と接触することでゲル化する性質を利用した「カラフル人工イクラ作り」といった食品成分を使った科学体験、暗いところで光る「トゥインクルスライム作り」、留学生らによる「民族衣装体験会」を行いました。来場者からは、「夏の宿題に使いそう」「勉強になりました」「海外の文化に触れることができ良かった」「北大の研究成果がこんなところで使われていたのですね」など、多くの嬉しいご意見・ご感想をいただくことができました。

「お絵かき体験」では、作品をスクリーンに映し出し、研究者になりきった白衣姿での記念撮影も行いました。

考え抜いて作った作品の前で誇らしげな顔をしている子どもたちに、北大の将来を背負う科学者が生まれてくる可能性を感じました。

本学の研究成果の社会実装に向けた産学協働及び地域の課題解決に向けた地域協働を推進するとともに、これらに資する人材を育成し、産業等の発展及びイノベーションの創出に資することを目的としている産学・地域協働推進機構では、FMI国際拠点棟を一般の方に対して常に開放しています。今後も、市民の皆様と研究者が触れ合える機会・場の提供を行っていきます。



親子で楽しむ科学体験



民族衣装体験会の様子

## 環境科学院で北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催

環境科学院では、6月4日（土）・5日（日）の2日間、北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催しました。

今回で10回目の開催となりましたが、企画の内容は、環境科学の実験の一部を14のテーマで体験する「環境科学を体験・観察しよう」、環境科学院の学生や教員の活動を紹介する「環境科学院ってどんなところ？」などが行われました。

開催期間中、札幌市内・近郊、道外から1,100名以上の親子連れの小学生や中・高・大学生・一般の方が訪れ、体験型の研究施設公開を楽しまれました。

来場者にアンケートを実施したとこ

ろ、「わかりやすく説明してもらい、科学が好きになった」「色々な実験が楽しかった。子供も楽しめる企画が多かった」「レベルの高い展示、幅広い研究分野に驚いた。来年も参加したい」などの高い評価をいただきました。

今後も企画の内容に改善を加え、皆



科学実験を見学する来場者

様に喜ばれる研究施設公開を開催していきたいと考えています。

(環境科学院・地球環境科学研究院)



地表面のデコボコの3次元解析に用いられるドローンの飛翔風景

## 経済学部で成績優秀者表彰式を挙行



本年度の受賞者

6月23日（木）、経済学部会議室において、経済学部「成績優秀者表彰制度」による表彰式を行いました。

「成績優秀者表彰制度」は、前年度に修得した成績がGPA順位の上位者で、かつ、一定単位以上の学部専門科目を履修した者のうちから、学部長が学生の模範となるような成績優秀者を選考し表彰するとともに、Dean's List

(成績優秀者名簿)に登載し、末永くその努力と名誉を讃えることを目的としています。今年度は3年次学生10名、4年次学生10名の計20名を表彰しました。

表彰式では、町野和夫経済学部長が出席者全員に表彰状と副賞を手渡した後、賞賛と激励の言葉を述べました。引き続き行われた懇親会では、新渡戸

賞を受賞した本学部の2年次学生も招待され、親睦を深めました。

経済学部では、今後も学生の学習意欲向上を促すための取組みを行っていく予定です。

(経済学研究科・経済学部)

## 会計専門職大学院で日本内部監査協会と共催セミナーを開催

会計専門職大学院（経済学研究科会計情報専攻）では、6月10日（金）にクラーク会館講堂において、「頼りにされる内部監査部門であるために」をテーマとして、一般社団法人日本内部監査協会との第9回共催セミナーを開催しました（後援：札幌証券取引所）。

セミナーでは、第1部として、北海道ガス株式会社監査部長兼内部監査グループマネージャーの山崎秀樹氏と、株式会社サッポロドラッグストア内部監査室ゼネラルマネージャーの淡谷卓司氏により、当セミナーと同じテーマを掲げて昨年実施した内部監査の実態調査の結果報告と、その後1年間の環境変化を考慮した問題提起が行われました。

これを受けて、第2部では、「内部監査の継続的進化に向けて」というテーマの下で、内部監査を継続的に進化させるために考慮すべき3つの論点をめぐってパネル討論会が行われました。パネリストは、杉本幸樹氏（株式会社オストジャングループ内部監査室長）、高橋和博氏（エム・エス・ケー農業機械株式会社社長室監査チームリーダー）、並びに第1部の講師でもある山崎氏と淡谷氏で、進行係は会計専門職大学院の蟹江章教授が務めました。

杉本氏は、論点として「監査重点のシフト」を挙げ、内部監査を取り巻く環境が変化する中で、経営者をはじめ

とする内部監査のステークホルダーからの期待に応え、かつ、内部監査人として組織の価値向上に貢献するためにやりたいことを実現するには、監査重点をいくつかの要因に基づいて慎重に選定していく必要があると述べられました。そして、監査重点の選定に際して考慮すべき要因として、組織に決定的なダメージを与えるリスク、組織体の戦略、目的達成を阻害するリスクなどを挙げられました。

高橋氏は、論点として「戦略的な専門性の向上」を挙げ、アンケートの結果から浮き彫りになった、特に不足しているとされるスキルを向上させるために、中長期にわたる計画的な人材育成、若年層の内部監査部門への配属や内部監査のキャリアパスへの組み込みなどの必要性を強調されました。また、内部監査人に対しては、社外の研修に積極的に参加したり人的なつながりを求めたりすることで、自ら意識的に専門性の向上機会を創り出すことが重要であると指摘されました。

山崎氏は、論点として「自律的内部統制定着の支援」を挙げ、経営環境が激変しこれに伴って増大するリスクに組織が柔軟かつ迅速に対応するためには、組織が自律的にリスクをコントロールする仕組みを定着させる必要があると主張されました。組織がその目的や倫理観を共有し、内部統制を主体的に整備・運用するとともに、継続的

に改善する体制を整備することが必要であり、これを支援することが内部監査に求められる役割であると強調されました。

淡谷氏は、この1年の間に、コーポレートガバナンスの考え方に大きな変化があり、法令の遵守や規制の強化という面だけにとらわれるのではなく、組織の価値向上のために積極果敢にリスクをとっていくことの重要性に言及されました。その上で、内部監査は積極的な組織運営を支援するとともに、リスクへの対応を通じて守りの要としての役割をも果たすべきであるという点を強調されました。

討論では、会場からの質問にも答えながら、3つの論点の意義を明らかにするとともに、これらを深化させることによって、内部監査が経済社会に貢献するための進化の方向性について活発な意見交換が行われました。

今回のセミナーには、内部監査の実務者や本学の学生、道外からの30名余りを合わせて、170名を超える参加者があり、内部監査が今後どのように進化していくべきかについて考える大変良い機会となりました。

会計専門職大学院では、今後もこうした催しを通じて、地域社会における会計・監査実務の発展に貢献していきたいと考えています。

（経済学研究科・経済学部）



講演する山崎氏



講演する淡谷氏



パネルディスカッションの様子

## 薬学部で薬害をテーマにFD研修会を開催

薬学部では6月13日（月）に臨床薬学講義室において、本年度第1回FD研修会を、薬学部2年次薬学概論の講義を兼ねて開催しました。今回のテーマは、薬学関連の教育・研究を担う薬学研究院・薬学部の教員にとっては大変重要なもので、本学薬学部のOBであり、東京理科大学薬学部講師の佐藤嗣道先生に約3時間にわたってご講演いただきました。

佐藤先生はご自身がサリドマイド被害者であり、また、医薬品リスク管理及び社会薬学を専門とする研究者です。研修会は、その両者の立場から、薬害の歴史、要因、社会的な問題と現状、さらに、いかにしてそのリスクを管理すべきかについて、ご自身のお考えを交えながらお話いただきました。サリドマイド禍、スモン、輸血によるエイズ感染、予防注射による肝炎

感染などの薬害をテーマとして、科学的データと客観的事実に基づいて大変わかりやすくご説明いただきました。講演を通して、ドイツや日本で多数の被害者が出たサリドマイド禍を、米国では行政の適切な対応でほぼ未然に防いだという事実にも関わらず、その後も不適切な企業や行政の対応が薬害を発生させ、また、被害を拡大させたことをよく理解することができました。

薬害を起こすのも防ぐのも人であることを肝に銘じ、薬学に携わる者は教育・研究に取り組まなければならないことを改めて学ぶ機会となりました。

薬学研究院・薬学部の教員にとって、また、これから薬学を学ぶ2年次学生にとっても、大変意義深いFD研修会・講義となりました。

（薬学研究院・薬学部）



講演する佐藤先生



熱心に耳を傾ける参加者

## 工学系部局で救急救命講習会を実施

工学系部局では、6月24日（金）に工学研究院A棟（管理・研究棟）において、札幌市消防局北消防署幌北出張所から消防隊員を招き、救急救命講習会を実施しました。

工学系部局のエリア内では、「どこにいても5分以内にAEDによる処置が可能となる」目安を満たすよう、10箇所にAED（自動体外式除細動器）を設置していますが、実際に使用できるか不安な人も多くいます。

この講習会は、学内外に関わらず心肺停止に陥った人がいた場合、AEDを利用する等の方法により救急救命処置を行うことができるよう、心肺蘇生術を自身の技能として体得することを目的に実施したものです。

講習会では13名の参加者が、「救命入門コース」として心臓マッサージや人工呼吸の方法、AEDの使用方法などの基礎的な実技を学び、終了後全員に「救命入門コース受講証」が発行さ

れました。

参加者からは、「とてもわかりやすかった」「来年も参加したい」などの感想がありました。

工学系部局では、次年度以降も救急救命講習会を開催していく予定です。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究科、量子集積エレクトロニクス研究センター）



心臓マッサージについて説明を聞く参加者



協力してAEDを使用した心肺蘇生術を行う参加者



## 北海道大学病院にてインセンティブ経費表彰式を挙



表彰式後の記念撮影

6月9日(木)、北海道大学病院では、9回目となるインセンティブ経費表彰式を挙行し、平成27年度において経営改善等に特に貢献した部署の診療科長や部長など19名を表彰しました。表彰式では、寶金清博病院長による挨拶の後、受賞者に表彰状が授与され、記念撮影が行われました。

インセンティブ経費は、平成19年度

に院内のモチベーションを高め経営改善等を推進するために導入された制度です。年度ごとに、診療報酬請求額や管理会計における限界利益等の経営改善指標、院内各部署における社会的地位向上に向けた取組を評価し、高い成績を取めた部署は病院長から表彰されるとともに、研究経費等の予算が配分されています。



表彰状授与

本制度は、より効果的な運用ができるよう定期的に見直されてきましたが、来年度、導入後10年を迎えるにあたり、制度内容のさらなる充実を目指して検討を進めていく予定です。

(北海道大学病院)

## 附属図書館「国際機関情報の探し方セミナー」を開催

附属図書館では、4月26日(火)から6月15日(水)にかけて、本館リテラシールームにおいて公開セミナー「国際機関情報の探し方セミナー」を開催しました。

これは国連寄託図書館及びEU情報センターに指定されている附属図書館が、国際機関の情報についてのリテラシー向上を目的として開催したものです。全8種11回行い、うち国際法(基礎)編については、法学研究科附属高等法政教育研究センターとの共同企画

として実施しました。

セミナー各編ともに近年、電子化公開が進んでいる国際機関の資料や文書を対象に、インターネットからの検索方法や無料のWebツールの利用方法について、実習を交えて講義を行いました。講師は、OECD(経済協力開発機構)編についてはOECD東京センターの高橋しのぶ氏、その他は附属図書館職員が担当しました。

セミナーの参加者数は学生、教職員、一般市民をあわせて延べ171名でし

た。参加者に実施したアンケートによると「演習も随時含まれていてためになった」「これまで存在すら知らなかったツールを知ることができた」「多角的なデータの探し方を学ぶことができた」といった声が寄せられました。OECD編を除く当日の資料については、8月末を目処にHUSCAPに掲載予定です。

(附属図書館)

### セミナー日程・内容

- ・国連編：4月26日(火)、6月8日(水)
- ・統計(農業・気象・環境)編：4月28日(木)
- ・EU編：5月9日(月)
- ・統計(経済・産業・貿易)編：5月11日(水)
- ・国際法(基礎)編：5月13日(金)
- ・統計(労働・人口・教育・国際協力)編：5月18日(水)、6月15日(水)
- ・OECD編：5月20日(金)(2回開催)
- ・特許(基礎)編：5月27日(金)



セミナーの様子

# 物質科学リーディングプログラムが数理連携の第一人者を招き 特別講演会とパネルディスカッションを開催

物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム(ALP)\*では、6月10日(金)に数理連携の第一人者を招聘し、数学出身である山口佳三総長を交えた講演会とパネルディスカッション「数理科学が創るインクルージョン社会」を開催しました。物質科学における数理連携や異分野融合を目指す際の解決すべき事柄、本学における取り組みの様子などについて会場全体とともに考えました。

特別講演会では、最初に山口総長から「数式に惑わされるな!『数覚』を養おう」と題する講演が行われ、学びにおける意識改革の重要性が強調されました。学ぶ側には、ネット上で知識のライブラリ化が進む昨今、自分の頭の中に知識を詰め込むのではなく、いかにそれらを統合していくのかという観点が必要であり、一方、教える側には、全てのコンテンツを提供するのではなく、虫食い算のような形で自ら思考するプロセスを促すような教授法の開発が望まれるという趣旨の問題提起がありました。これは、近い将来、多くの職業がロボットに取って代わられるような状況の中で、本当に身に付けるべき能力に直結する問いでもありました。

次に広島大学大学院工学研究院の廣

川真男教授による講演「A Mathematical Alien's Adventure in the Physically Actual World (物理的実世界、数学異邦人の冒険)」が行われ、異分野融合研究を実行する際の課題や協同に際したコミュニケーション方法などについて、体験談を交えながら紹介していただきました。必要な科学・技術を身に付けるにはその分野へ飛び込むのが有用であることや、異分野のチームを組むためには各分野の価値観やメリットを把握したチームマネジメントが重要であることを強調されました。その後、リーディングプログラム生が数理連携活動の紹介、及びそこで感じた異分野融合を推進するための課題点や今後の大学教育に望むことを発表しました。

最後にモデレーターとして東北大学原子分子材料科学高等研究機構の西浦廉政教授をお招きし、登壇者全員と電子科学研究所附属社会創造数学研究センターの長山雅晴教授と、リーディングプログラムコーディネーターの石森浩一郎教授を加え、数理連携の今後をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。登壇したプログラム生は、数理連携の重要性を聴講する機会が多いものの自分一人での実行は難しく、チームで取り組みやすい環境が必

要であると訴えました。登壇された先生方からは本学及び他組織における取り組みの様子が紹介され、西浦教授は若いプログラム生による素直な意見は貴重であり、今後の数理連携には組織的なフォローやその推進のための仕掛けづくりが重要であるとまとめられました。また会場からは山口総長に向けて、リーディングプログラムで実施しているような専門の枠を超えたグループによるディスカッションの機会を、大学全体としてサポートしてほしいと要望が出る一幕もありました。

大学総長の講演を聴講し議論をするという機会は参加学生にとって非常に貴重なものとなりました。数理連携の最前線で活躍されている登壇者からのメッセージを受けた学生たちの今後の活動に期待したいと思います。

\*物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム(ALP)

総合化学院総合化学専攻、生命科学院生命科学専攻、環境科学院環境物質科学専攻、理学院数学専攻、工学院量子理工学専攻に所属する大学院生を対象とする5年一貫の大学院教育プログラム。

(総合化学院)



講演する山口総長



パネルディスカッションの様子



パネルディスカッションで会場からの意見に応じる様子

## 第27回全国共同利用情報基盤センター長会議を開催

6月17日（金）、札幌市内のホテルにおいて、情報基盤センターが当番校となり「第27回全国共同利用情報基盤センター長会議」を開催しました。

本会議は、本学を含む国立7大学と国立情報学研究所を構成機関として、全国共同利用機関として相互の連携を図るため、年2回開催されるものです。

会議には文部科学省研究振興局から榎本 剛参事官、塚本 暢参事官付専

門職を迎え、榎本参事官より「文部科学省研究振興局参事官（情報担当）付における最近の取り組みについて」の説明が行われました。中でもスーパーコンピュータ「京」をはじめとするHPCI（ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ）の構築や、ポスト「京」の開発に向けた文部科学省の取り組み、世界の多くの分野で活用が重要視されているビッグデー

タの利活用のための研究開発の重要性について、詳しい解説がなされました。

また、各機関からの提案に基づく諸議題等についての協議等が行われ、活発な議論が交わされ、所期の目的を十分に達成し終了しました。

（情報基盤センター）



文部科学省の榎本参事官による説明



協議するメンバー

## ■お知らせ

# 「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成27年度）」の概要について

独立行政法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表に関する政府決定等及び国立大学法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）に基づき、本学の役員の報酬等、職員の給与水準及び総人件費について、平成27年度分の概要をお知らせします。

### 平成27年度における役員の報酬等の支給状況

	役員10人（法人の長、理事（7人）、監事（2人））
年間報酬等の総額	143,966千円

### 平成27年度における職員の給与水準

	比較対象人員数（注）	平均年齢	平成27年度 年間給与額（平均）
事務・技術職員	930人	41.2歳	5,505千円
教育職員（大学教員）	1,446人	47.4歳	8,459千円
医療職員（病院看護師）	423人	39.3歳	5,272千円

注）「比較対象人員数」は、平成28年4月1日現在、在職している常勤職員（平成27年度途中の採用者及び異動者等を除く。）である。

### 総人件費

区 分	平成27年度	平成26年度	比較増△減	
給与、報酬等支給総額（A）（注1）	千円 29,854,384	千円 28,979,637	千円 874,747	% 3.0
退職手当支給額（B）（注1）	千円 1,639,705	千円 1,879,983	千円 △ 240,278	% △ 12.8
非常勤役員等給与（C）（注2）	千円 13,404,356	千円 12,446,545	千円 957,811	% 7.7
福利厚生費（D）（注3）	千円 5,874,202	千円 5,562,214	千円 311,988	% 5.6
最広義人件費（A+B+C+D）	千円 50,772,648	千円 48,868,380	千円 1,904,268	% 3.9

注1）「給与、報酬等支給総額」及び「退職手当支給額」は、常勤役員及び常勤職員に支払われた報酬（給与）、賞与、その他の手当の総額並びに退職手当の総額である。

注2）「非常勤役員等給与」は、非常勤役員及び非常勤職員等に支払われた給与及び退職手当の総額である。

注3）「福利厚生費」は、全ての役員及び職員（非常勤職員等を含む。）に係る法定福利費と法定外福利費の総額である。

※本概要の詳細については、本学ホームページ（広報・公開、情報公開、法令等に基づく公表事項、その他公表事項）に掲載しています。（<http://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/other/>）

（総務企画部人事課）

# 夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について

本年度も、夏季期間における連続休暇取得の奨励及び省エネルギー対策のため、工学系建物の閉鎖を下記のとおり実施しますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

## 記

### 1. 実施期間・体制について

期 間：8月11日（木・祝）～16日（火）

体 制：原則として休日の期間と同様の体制とします。

### 2. 郵便物・宅配便について

郵便物：局留となりますので、受領及び発送等の取り扱いは、8月17日（水）からとなります。

宅配便：原則として警務員室にて受理・保管となります。

### 3. 緊急時の体制について

緊急時の対応は、原則として「夜間、休日等における緊急連絡体制」によります。

詳細については、工学系事務部総務課（TEL：011-706-6115）までお問い合わせください。

（工学院・工学研究院・工学部，情報科学研究科，量子集積エレクトロニクス研究センター）

## 博士學位記授与

6月30日(木)に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は38人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は4人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

### 課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士(文学)	井上淳生		日本の社交ダンスにおける上演作品化に関する舞踏人類学的研究 主査：教授 栗山 敬己
	山口和彦		English <i>Capability</i> -constructions: A Descriptive Study (英語の可能構文：記述的研究) 主査：特任教授 高橋 英光
	小野田竜一		一般交換の新たな成立メカニズム：所属集団に関する情報の利用 主査：准教授 高橋 伸幸
博士(法学)	許 清		商標類否の判断基準に対する一考察－裁判例に基づく商標類似性に対する分析－ 主査：教授 田村 善之
	劉 影		技術標準と市場の失敗－特許制度における救済策の改善を中心に－ 主査：教授 田村 善之
博士(医学)	市川伸樹		マウス炎症性腸疾患モデルにおける新規抗炎症薬3-[(dodecylthiocarbonyl)methyl]glutarimideによる炎症抑制効果に関する研究 主査：教授 坂本 直哉
	右近直之		分子イメージング装置を用いた動体追跡放射線治療の可能性検討及び画像動態解析による放射性薬剤充進過程の評価と撮像法の最適化に関する研究 主査：教授 大場 雄介
	神田真聡		Invariant natural killer T細胞におけるinterferon-gamma産生の分子機序の解明 主査：准教授 北村 秀光
	京極典憲		CHP-MAGE-A4がんワクチン療法におけるIgGサブクラスおよびIgE抗体反応の重要性についての研究 主査：教授 秋田 弘俊
	齋藤博紀		肝門部胆管癌における術前予後予測スコアリングシステムに関する研究 主査：准教授 神山 俊哉
	菅家鉄平		冠動脈CTにより側副血行路を描出することの臨床的有用性についての研究 主査：教授 丸藤 哲
	曽山武士		デジタル/リアル ハイブリッドファントムの開発と標的同期におけるUS単独とUS-CT fusion imagingの比較 主査：教授 平野 聡
	ディリヌル アニ瓦尔 艾尼瓦尔		p53 represses the transcription of <i>snRNA</i> genes by preventing the formation of little elongation complex (p53はlittle elongation complexの形成を阻害することによって <i>snRNA</i> 遺伝子の転写を抑制する) 主査：教授 田中 伸哉
	董陽子		増殖組織形成を伴う視力予後不良疾患の病理学的検討 主査：教授 松野 吉宏
	西尾佐奈恵		低pH依存性細胞融合能を指標としたSFTSV YG1株のサブストレインの確立と応用 主査：教授 村上 正晃
	原田太以佑		7テスラMRIの多チャンネル送信システムにおける息止め併用キャリブレーションスキームによる画像再現性向上の検討 主査：教授 森本 裕二

博士 (医学)	まえ だ けんいちろう 前 田 憲一郎	スポットスキヤニング照射における陽子線生物学的効果の評価とエチニルシチジンによる陽子線増感効果に関する研究 主査：教授 近藤 亨
	み むら り え 三 村 理 恵	卵巣境界悪性腫瘍と卵巣癌の半自動的手法を用いた拡散強調像のヒストグラム解析の比較：充実部分に着目して 主査：教授 篠原 信雄
	み よし あり な 三 次 有 奈	コントロール良好な2型糖尿病におけるNETレベルと高グルコースによるNET誘導経路 主査：教授 清野 研一郎
	ゆ ざわ さや か 湯 澤 明 夏	髄膜性腫瘍の分子遺伝学的マーカーと臨床病理学的因子との相関に関する研究 主査：准教授 矢部 一郎
	わ だ ひで ゆき 和 田 秀 之	消化器外科領域における近赤外線蛍光イメージングの応用 主査：教授 武富 紹信
博士 (獣医学)	お の うち さ わ 尾之内 佐 和	Analysis of the mechanism in gut morphological formation - Spatiotemporal control during mouse duodenojejunal flexure formation - (腸管の形態形成機序の解析 - マウス十二指腸空腸曲形成にみられる時空間的制御 -) 主査：教授 昆 泰寛
博士 (情報科学)	か とう のり お 加 藤 士 雄	3次元立体視とクラウドサービスを活用したVirtual Reality遠隔リハビリテーションシステムの開発 主査：准教授 工藤 信樹
博士 (環境科学)	かう わん ぶん 高 宛 倫	Acoustic estimation of standing stock and distribution of hairtail <i>Trichiurus japonicus</i> in Bungo Channel, Japan (音響手法を用いた日本豊後水道域におけるタチウオ <i>Trichiurus japonicus</i> の現存量及び分布域の推定) 主査：教授 宮下 和士
博士 (理学)	つつ い かず まさ 筒 井 和 政	Theoretical Study of Quasiparticle Excitations in Bose-Einstein condensates (ボーズ・アインシュタイン凝縮相における準粒子励起の研究) 主査：准教授 北 孝文
博士 (農学)	まえ じま えり こ 前 島 恵理子	Contribution of various cellular components to aluminum tolerance in plants (植物のアルミニウム耐性における細胞成分のはたらき) 主査：准教授 渡部 敏裕
	こ まつ つとむ 小 松 勉	ブドウつる割細菌病の発生生態と防除に関する研究 主査：教授 近藤 則夫
博士 (生命科学)	いえ う けん 葉 宇 鑫	Study on biomacromolecules concerning biofuel and illness by X-ray crystallography (生物燃料, 疾患に関するタンパク質のX線構造生物学の研究) 主査：教授 姚 閔
	さ とう こうしろう 佐 藤 紘士朗	Phase Separated Structure as Sacrificial Bond for Toughening of Gels (犠牲結合たる相分離構造によるゲルの高靱性化) 主査：教授 龔 劍萍
	ショビツ Shobith ランガッパ Rangappa	Glycoside cluster effects on antibody recognition of MUC1 glycopeptides (抗体によるMUC1糖ペプチド認識機構における糖鎖クラスター効果) 主査：教授 西村 紳一郎
	べっく み ふう 白 美 花	Lipopolysaccharide-bound structure of the antimicrobial peptide cecropin P1 determined by nuclear magnetic resonance spectroscopy (NMR法による抗菌ペプチドセクロピンP1のLPS結合構造の解析) 主査：准教授 相沢 智康
博士 (薬科学)	あ べ けん すけ 安 部 健 介	トランス2-エノイルCoAレダクターゼ TERの役割と病態の解明 主査：教授 木原 章雄
博士 (教育学)	さかい ち ひろ 境 智 洋	教材用小型たたら製鉄炉の研究開発及びその成果を活用した製鉄実習がもつ教科教育との連携効果の検証 主査：教授 大野 栄三
博士 (保健科学)	たか はし ゆう じ 高 橋 祐 司	汎用自動分析機を用いたHDL亜分画中のコレステロール定量測定法の開発に関する研究 主査：教授 齋藤 健
	や ぎ あき こ 八 木 亜希子	体外受精における使用済み胚培養液の組成と胚発育の関係に関する研究 主査：教授 齋藤 健

博士（工学）	リ 李	ジン 景	Numerical Investigation of the Aerodynamics of a Golf Ball (ゴルフボール周り流れの数値解析)  主査：教授 大島 伸行
博士（理学）	リ 李	ムウ 牧	Study of Photoelectrochemical CO <sub>2</sub> Reduction by Designing Novel Metal Cathodes and Semiconductor Photoanodes with Functional Nanostructure (新規ナノ構造電極の構築およびCO <sub>2</sub> の光電気化学還元に関する研究)  主査：教授 村越 敬
博士（工学）	ナ バ ン Napan ナ リ ン ヤ ット Narischat		Effect of Porous Structure of Carbon Support on CO Tolerance of PEFC Platinum Alloy Anode Catalysts (PEFCの白金合金アノード用触媒のCO耐性への炭素担体の細孔構造の影響に関する研究)  主査：教授 幅崎 浩樹

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名		
	氏 名				
博士（文学）	かね 金	みつ 光	ひで 秀	かず 和	技術の倫理への問い－実践から理論的基盤の探求へ－  主査：教授 藏田 伸雄
博士（環境科学）	い 池	が 川	し 慎	い 一	A study to develop a new wind estimation method to elucidate the general circulation of the Venus atmosphere (金星大気大循環の解明に向けた新たな風速推定手法の開発に関する研究)  主査：准教授 堀之内 武
	ふ 藤	た 田	さ 彩	か 華	Synthesis and characterization of water soluble EDTA-linked chitosan as a flocculant for the removal of heavy metal ions (水溶性EDTA結合キトサンの合成と重金属イオン凝集除去のための特性評価)  主査：教授 坂入 信夫
博士（生命科学）	まえ 前	かわ 川	かず 和	ひこ 彦	核酸を用いた迅速な標的探索手法の確立と新規抗菌剤に関する研究  主査：教授 出村 誠



## レクリエーション

### 平成28年度学内職員バドミントン大会（個人戦）の開催

平成28年度学内職員バドミントン大会（個人戦）を、6月13日（月）から6月23日（木）まで第2体育館において開催し、総勢80名が参加し、熱戦が繰り広げられました。

試合結果は次のとおりです。

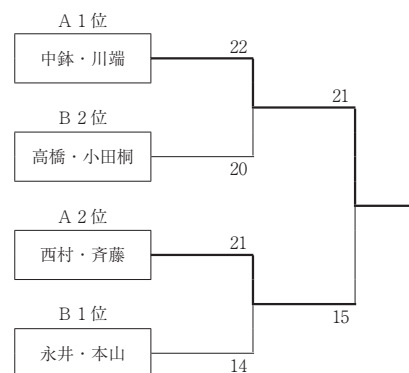
（職員バドミントン部）

#### 平成28年度学内職員バドミントン大会（個人戦）対戦表

##### ◆ Aクラス

###### Aブロック

				1	2	3	順位
				西村 匡史	高崎 峻介	中鉢 健太	
NO	氏名	所属	HC	齊藤 之史	横山 沙織	川端さおり	
1	西村 匡史	獣医学部	12	○	×	×	2位
	齊藤 之史	監査室					
2	高崎 峻介	保健科学研究所事務課	3	×	×	×	3位
	横山 沙織	理学部					
3	中鉢 健太	工学部	15	○	○	○	1位
	川端さおり	理学部					



###### Bブロック

				1	2	3	順位
				高橋 英嗣	越前 圭伍	永井 潤	
NO	氏名	所属	HC	小田桐 誠	細木 直大	本山 楓人	
1	高橋 英嗣	工学部経理課	5	○	×	×	2位
	小田桐 誠	工学部経理課					
2	越前 圭伍	財務部主計課	5	×	×	×	3位
	細木 直大	財務部主計課					
3	永井 潤	財務部調達課	15	○	○	○	1位
	本山 楓人	財務部調達課					

※HC（ハンディキャップ）は、対戦相手ペアに与えるポイントです。

※試合は、対戦相手ペアのHCと相殺されたポイントからスタートします。

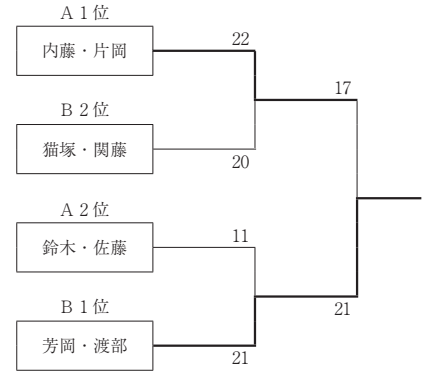
##### ◆ Bクラス

###### Aブロック

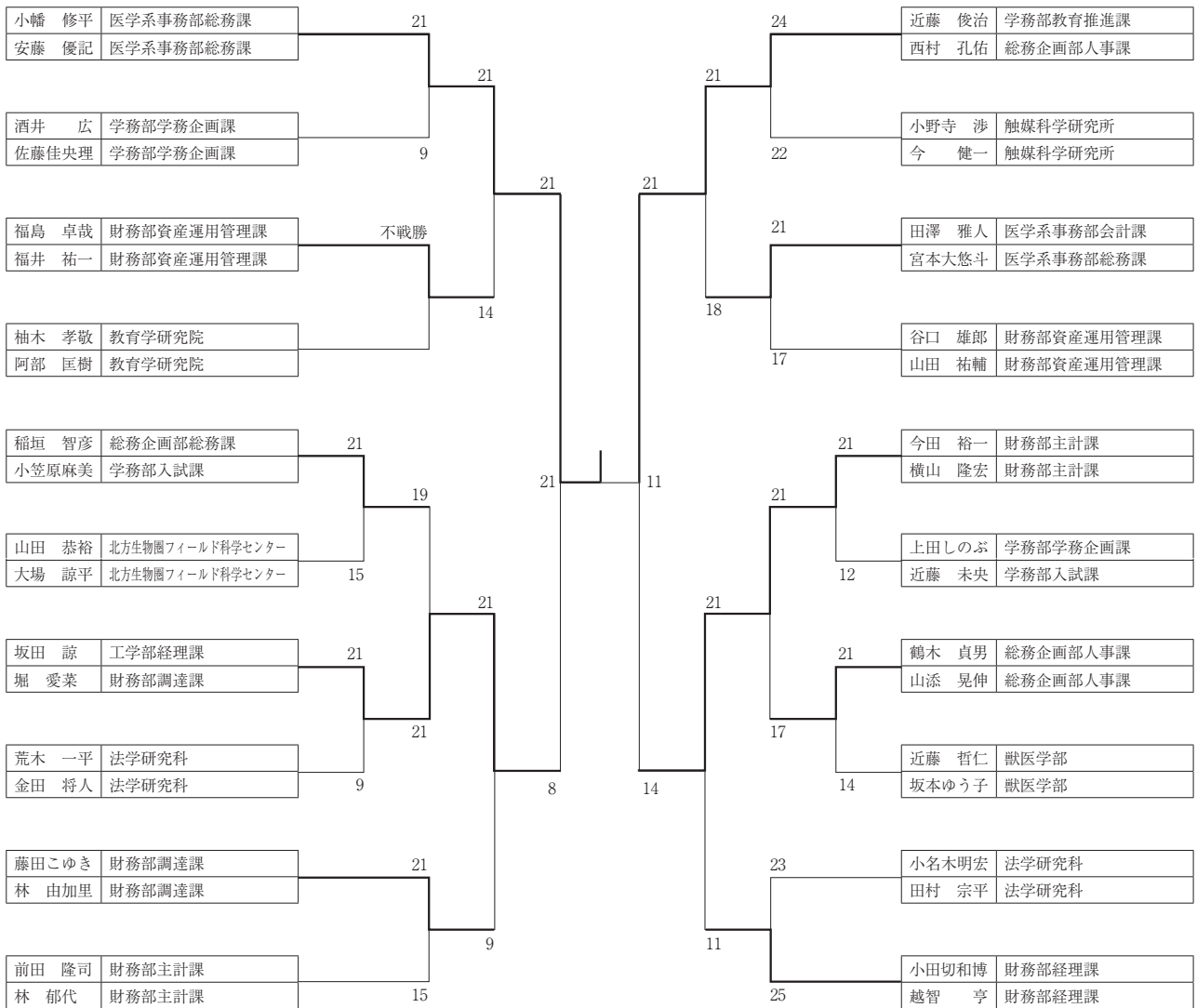
				1	2	3	4	順位
				増井 啓太	内藤 輝章	伊達龍太郎	鈴木 敦生	
NO	氏名	所属		菅原由紀子	片岡 玄吉	寺澤 惇	佐藤 祥嗣	
1	増井 啓太	学務部教育推進課		○	×	×	×	4位
	菅原由紀子	総務企画部企画課						
2	内藤 輝章	北キャンパス合同事務部		○	○	○	○	1位
	片岡 玄吉	北キャンパス合同事務部						
3	伊達龍太郎	病院総務課		○	×	×	×	3位
	寺澤 惇	病院総務課						
4	鈴木 敦生	理学部		○	×	○	○	2位
	佐藤 祥嗣	医学系事務部会計課						

Bブロック

NO	氏名	所属	1	2	3	4	順位
			鈴木 里奈	関藤 元太	渡部 瑞穂	柿崎 有紀	
1	長井 一真	病院総務課		×	×	×	4位
	鈴木 里奈	病院総務課		20-22	16-21	17-21	
2	猫塚 和美	財務部資産運用管理課	○		×	○	2位
	関藤 元太	財務部経理課	22-20		16-21	21-16	
3	芳岡 洋	学務部学務企画課	○	○		○	1位
	渡部 瑞穂	学務部学務企画課	21-16	21-16		21-15	
4	吉本 幸矩	財務部主計課	○	×	×		3位
	柿崎 有紀	財務部主計課	21-17	16-21	15-21		



◆Cクラス



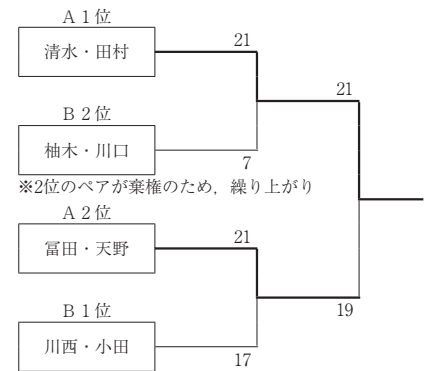
## ◆Dクラス

## Aブロック

			1	2	3	順位
			清水 優那	佐々木淳子	富田久美子	
NO	氏名	所属	田村菜穂美	藤井恵美子	天野 愛	
1	清水 優那	財務部主計課	/	○	○	1位
	田村菜穂美	環境健康科学研究教育センター		不戦勝	24-22	
2	佐々木淳子	学務部入試課	×	/	×	3位
	藤井恵美子	学務部学務企画課	不戦敗		不戦敗	
3	富田久美子	北方生物圏フィールド科学センター	×	○	/	2位
	天野 愛	北方生物圏フィールド科学センター	22-24	不戦勝		

## Bブロック

			1	2	3	順位
			川西奈津美	池畑周直美	柚木 静香	
NO	氏名	所属	小田 歩実	澁谷はる香	川口 留奈	
1	川西奈津美	学務部学務企画課	/	○	○	1位
	小田 歩実	学務部学務企画課		21-15	21-10	
2	池畑周直美	公共政策学連携研究部	×	/	○	2位
	澁谷はる香	法学研究科	15-21		21-16	
3	柚木 静香	財務部調達課	×	×	/	3位
	川口 留奈	財務部調達課	10-21	16-21		



入賞された皆さん

## ■ 諸会議の開催状況

---

### 役員会（平成28年 6月10日）

- 議案・平成27年度決算について
- ・平成28年度教育関係共同利用拠点の認定申請について
  - ・平成28年度部局評価配分事業について
- 協議事項・第2期中期目標期間評価について
- ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・キャンパス・クリーン・デーの実施結果について
- ・ディスティングイッシュトプロフェッサーの称号付与について
  - ・北大発ベンチャー称号記授与について
  - ・平成28年度総長室等事業推進経費について
- 

### 役員会（平成28年 6月22日）

- 議案・平成29年度概算要求事項（施設整備事業）について
- 

### 教育研究評議会（平成28年 6月22日）

- 議題・第2期中期目標期間評価について
- ・Integrated Science Programの設置構想について
  - ・Integrated Science Program（学士課程）に受け入れる外国人留学生に係る検定料について
  - ・平成29年度概算要求事項について
  - ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・ディスティングイッシュトプロフェッサーの称号付与について
- ・平成27年度決算について
  - ・学生の懲戒について
- 

### 役員会（平成28年 6月27日）

- 議案・第2期中期目標期間評価について
- ・Integrated Science Programの設置構想について
  - ・Integrated Science Program（学士課程）に受け入れる外国人留学生に係る検定料について
  - ・諸規則の一部改正について
  - ・クロスアポイントメントの適用について
- 協議事項・教員募集に係る国際公募の実施について
- 報告事項・事務局本館新営工事について
- ・全学運用教員の実施状況報告について
  - ・役職員の報酬・給与等の水準の公表について
  - ・平成27年度内部監査報告について
  - ・平成28年度会計監査人の選任について
- 

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

## ■ 学内規程

---

### 北海道大学通則の一部を改正する規則

（平成28年 7月 1日海大達第115号）

本年 4月 1日付けで学校教育法の一部が改正され、高等学校等の専攻科の課程を修了した者は大学へ編入学することができることとなったこと及び休業日に授業を行うことができることとするに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 北海道大学大学院通則の一部を改正する規則

（平成28年 7月 1日海大達第116号）

本年 4月 1日付けで学校教育法施行規則の一部が改正され、外国の学校教育における16年に満たない課程を修了した者に対し、大学院の入学資格を付与することができることとなったこと及び休業日に授業を行うことができることとするに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## 北海道大学医学部規程の一部を改正する規程

(平成28年7月1日海大達第113号)

本学医学部において、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学病院規程の一部を改正する規程

(平成28年7月1日海大達第114号)

本年7月1日付けで、北海道大学病院にHIV診療支援センターを設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程

(平成28年7月7日海大達第117号)

本年3月31日をもって公益財団法人北海道大学クラーク記念財団が解散し、これまで同財団が行ってきた学生支援及び本学の教育研究の充実に資する事業を北大フロンティア基金が引き継ぐことにより、同基金の事務を所掌する総務企画部広報課に必要な権限を付与することに伴い、所要の改正を行ったものです。

## ■ 研修

### 平成28年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

開催期間：平成28年6月14日～16日

開催場所：百年記念会館大会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の中堅職員としての立場と責務を自覚させるとともに、職務に対する知識を深め、企画力及び問題解決能力の向上を図ることを目的とする。



特別講話（徳久治彦理事・事務局長）



講義「情報セキュリティ」  
（南 弘征情報基盤センター教授）



講義「メンタルヘルス」  
（朝倉 聡医学研究科准教授，産業医）



演習・グループワーク

(総務企画部人事課)

# 表敬訪問

## 海外

年月日	来訪者	来訪目的
28.6.6	タマサート大学（タイ） Somkit Lertpaithoon 学長	両大学の交流に関する懇談
28.6.8	ドレスデン応用科学大学（ドイツ） Knut Schmidtke 副学長	両大学の交流に関する懇談
28.6.15	東北大学（中国） Sun Lei 副学長	両大学の交流に関する懇談
28.6.17	スラナリー技術大学（タイ） Prasart Suebka 副学長	両大学の交流に関する懇談
28.6.28	サンカルロス・デ・グアテマラ大学（グアテマラ） Maria Paz Cabrera 西分校長	両大学の交流に関する懇談
28.6.29	パテイン大学（ミャンマー） Nyunt Phay 学長	両大学の交流に関する懇談
28.6.30	マイソール大学（インド） Kanchugarakoppal Subbegowda Rangappa 学長	両大学の交流に関する懇談



タマサート大学（タイ）  
Somkit Lertpaithoon 学長（前列中央右）



ドレスデン応用科学大学（ドイツ）  
Knut Schmidtke 副学長（前列左）



東北大学（中国） Sun Lei 副学長（前列左）



スラナリー技術大学（タイ）  
Prasart Suebka 副学長（前列中央）



サンカルロス・デ・グアテマラ大学（グアテマラ）  
Maria Paz Cabrera 西分校長（前列右側）



パテイン大学（ミャンマー）  
Nyunt Phay 学長（前列中央右）



マイソール大学（インド）  
Kanchugarakoppal Subbegowda Rangappa 学長  
（前列中央右）

（国際本部国際連携課）

# 人事

## 平成28年6月3日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【経営協議会委員】 (期間：平成30年6月2日まで) (期間：平成30年6月2日まで)	大 鐘 秀 峰 高 橋 賢 友	北海道高等学校長協会会長・北海道札幌北高等学校長 北海道経済連合会会長

## 平成28年6月15日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (任期満了)	寺 本 央	電子科学研究所附属社会創造数学研究センター助教

## 平成28年6月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 触媒科学研究所助教	SHROTRI ABHIJIT	採用

## 平成28年6月17日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 (辞職)	實 吉 智香子	北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員

## 平成28年6月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【講師】 (辞職)	堀 田 哲 也	北海道大学病院講師
【助教】 (辞職)	ZIEMNICKA SYLWESTER MARTA AGNIESZKA	大学院工学研究院助教
【技術職員等】 (辞職)	高 岡 知 代 阿 部 紗 弓 石 川 綾 乃 漆 山 夏 紀 沖 津 英 河 尻 笑 美 工 藤 智 穂 高 橋 育 美 富 樫 美 香 鳥 羽 園 実 本 多 弥 生 山 谷 奈穂子	北海道大学病院薬剤部薬剤師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師
【嘱託職員】 (辞職)	菊 池 仁	北海道大学病院医療技術部

平成28年7月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<b>【教授】</b> 国際連携研究教育局・北極域研究センター教授 (転出) 九州大学大学院医学研究院教授 文部科学省	大 塚 夏 彦 筒 井 裕 之 渡 邊 康 正	採用 大学院医学研究科教授 大学院工学研究院教授
<b>【准教授】</b> 大学院医学研究科准教授 大学院獣医学研究科准教授 大学院工学研究院准教授 大学院工学研究院准教授 国際連携研究教育局・人獣共通感染症リサーチセンター准教授	保 田 晋 助 中 尾 亮 笹 倉 弘 理 藤 井 修 治 新 開 大 史	大学院医学研究科講師 採用 採用 長岡技術科学大学工学研究院助教 採用
<b>【講師】</b> 北海道大学病院講師 北海道大学病院講師	後藤田 章 人 高 師 則 行	北海道大学病院助教 北海道大学病院助教
<b>【助教】</b> 大学院医学研究科助教 大学院水産科学研究院助教	伊 藤 智 城 米 山 和 良	採用 鹿児島大学学術研究院助教
<b>【課長・事務長・室長】</b> (命・国際本部国際連携課長) (出向) 室蘭工業大学経理課長 (転出) 文部科学省大臣官房国際課人物交流専門官	川野辺 創 八 卷 雅 彦 原 口 希	国際本部副本部長 医学系事務部会計課課長補佐 国際本部国際連携課長
<b>【補佐】</b> 医学系事務部会計課課長補佐	森 誠	財務部調達課係長
<b>【係長】</b> 総務企画部人事課係長 財務部主計課係長 財務部経理課係長 財務部調達課係長 学務部学務企画課係長 学務部学生支援課係長 研究推進部研究支援課係長 施設部施設企画課係長 医学系事務部会計課係長 獣医学研究科・獣医学部係長 獣医学研究科・獣医学部係長 函館キャンパス事務部係長 理学・生命科学事務部事務課係長 メディア・観光学事務部係長 工学系事務部情報科学研究科事務課係長 北海道大学病院総務課係長 北海道大学病院管理課係長 北方生物圏フィールド科学センター係長 (出向復帰) 薬学事務部係長 (出向) 国立日高青少年自然の家管理係長	木 村 一 男 奥 大 輔 新 見 雅 之 瀧 雅 人 上 岡 潤 次 菅 野 崇 佐々木 徹 也 岩 佐 美 穂 鍵 谷 みゆき 斎 藤 由美子 藤 澤 真 浩 金 森 淳 二 谷 本 裕 臣 西 村 匡 史 柴 野 仁 水 野 仁 岩 部 順 越 智 亨 西 徹 吉 田 哲 也	医学系事務部会計課係長 函館キャンパス事務部係長 総務企画部人事課係長 財務部経理課係長 北方生物圏フィールド科学センター係長 北海道大学病院管理課係長 学務部学務企画課係長 研究推進部研究支援課係長 メディア・観光学事務部係長 薬学事務部係長 財務部調達課係長 獣医学研究科・獣医学部係長 財務部主計課係長 獣医学研究科・獣医学部係長 学務部学生支援課係長 工学系事務部情報科学研究科事務課係長 理学・生命科学事務部事務課係長 財務部経理課主任 国立日高青少年自然の家管理係長 農学事務部主任



新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<b>【主任】</b>		
総務企画部広報課主任	本 間 義 将	工学系事務部総務課主任
財務部主計課主任	谷 口 雄 郎	財務部資産運用管理課主任
財務部調達課主任	窪 田 一 将	北海道大学病院経営企画課主任
財務部調達課主任	垂 井 智 広	北海道大学病院管理課主任
経済学研究科・経済学部主任	吉 田 裕 子	医学系事務部会計課主任
医学系事務部会計課主任	加 藤 哲 也	北海道大学病院総務課主任
医学系事務部保健科学研究所事務課主任	桑 村 厚 志	財務部調達課付主任
理学・生命科学事務部事務課主任	山 田 久 恵	教育学事務部主任
農学事務部主任	澤 谷 講 平	財務部調達課主任
教育学事務部主任	細 川 雅 之	施設部施設企画課主任
北海道大学病院経営企画課主任	久 保 大 輔	財務部主計課財務管理室主任
北キャンパス合同事務部主任	鈴 木 頼 子	理学・生命科学事務部事務課主任
<b>【係員】</b>		
財務部主計課	本 間 靖 浩	理学・生命科学事務部事務課
財務部主計課財務管理室	飛 岡 直 樹	北海道大学病院管理課
財務部経理課	北 垣 友 里	経済学研究科・経済学部
財務部調達課	福 島 卓 哉	財務部資産運用管理課
財務部資産運用管理課	木 内 秀 和	医学系事務部会計課
財務部資産運用管理課	吉 原 悠 平	農学事務部
医学系事務部会計課	佐 藤 未 奈 子	北キャンパス合同事務部
医学系事務部会計課	清 水 優 那	財務部主計課
医学系事務部会計課	本 多 佑 輔	財務部調達課
歯学研究科・歯学部	桑 村 真 美	医学系事務部保健科学研究所事務課
環境科学事務部	岸 紘 子	総務企画部広報課
農学事務部	田 澤 雅 人	医学系事務部会計課
工学系事務部総務課	江 崎 公 二	低温科学研究所
北海道大学病院管理課	柿 崎 有 紀	財務部主計課
北海道大学病院管理課	永 井 潤	財務部調達課
北キャンパス合同事務部	但 田 亜 澄	医学系事務部会計課

新任教授紹介

平成28年7月1日付



北極域研究センター教授に

おおつか なつひこ  
**大塚 夏彦 氏**

研究部環境工学研究グループ

生年月日

昭和33年7月30日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科環境資源工学専攻博士課程修了（平成13年3月）  
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

海岸工学，水海工学

## 訃報

名譽教授 ながおか きんご 長岡 金吾 氏  
(享年93歳)



名譽教授 長岡金吾先生が、平成28年5月28日に逝去されました。先生は昭和20年9月に北海道帝国大学機械工学科を卒業後、北海道工業試験場に勤務されました。昭和37年、工学部に創設された機械工学第二学科機械材料学講座の担任教授として着任され、同61年3月に停年により退官されるまで24年間、本学の教育と研究指導に尽力されました。研究面では鋳鉄及び鋳造に

関する研究で著名であり、多くの優れた研究成果をあげられました。特に、鋳鉄の高温使用における材質劣化の原因を、黒鉛の不可逆移動によるものとして理論的に解明し、学界多年の論争に決着をつけました。また、機械破損事故の調査技術を学術として発展させ、「破損解析法」として確立するとともに、これを応用して北海道内で生じた多くの機械災害の原因究明にあたられました。

一方、研究成果の応用と技術指導、人材育成を通じて地場産業の育成振興にも貢献され、特に鋳造工業及び熱処理工業については、北海道における業界の基盤を築かれました。また、長年、北海道商工業振興審議会委員等、産業関連の公的委員を務められました。

学内では、昭和44年から学生部委員会委員、同46年からは評議員として大

学の運営に参画し、特に大学紛争の困難な時期に卓越した手腕を発揮して多大な貢献をされました。工学部では広報委員長、施設委員長を歴任、また日本学術振興会委員、文部省学術審議会専門委員を務められました。学術賞としては、日本鋳物協会功労賞、同小林賞並びに飯高賞を受賞され、平成4年には日本機械学会名誉員に推挙されています。これらの功績により、平成11年に勲三等旭日綬章を受章されました。

先生は広い視野と温かいお人柄で多くの学生から慕われただけでなく、若い教職員にも大きな影響を与えられました。先生の長年にわたるご貢献に改めて感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

名譽教授 かめい ひでお 亀井 秀雄 氏  
(享年79歳)



名譽教授 亀井秀雄氏は平成28年6月17日に間質性肺炎のために逝去されました。ここに同氏の生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

亀井先生は、昭和12年2月18日、群馬県に生まれ、同34年3月北海道大学文学部を卒業、同年4月北海道芦別高等学校教諭、同37年4月北海道札幌東高等学校教諭を経て、同40年4月岩見沢駒澤短期大学専任講師となり、同43年4月北海道大学文学部助教授に採用、同59年4月に教授に昇任され、平成12年3月に定年退官されるまで文学部の教育・研究に努められました。

亀井先生は、日本語表現の研究の歴史と、日本の近代文学の伝統から派生した文学論を統合し、世界的な文学理論と研究方法に基づく業績を多く残し、近代文学研究の水準を高めることに尽力されました。また、昭和62年にミュンヘン大学の客員教授、平成7年にコーネル大学の客員教授、同14年にカリフォルニア大学ロサンゼルス校の客員教授となり、海外において日本近代文学研究の教育にも力を注がれました。

亀井先生の研究対象分野は、作家論、言語論、身体論、表現論、文体論、文学史(論)、など多岐にわたります。主著『感性の変革』(昭和58年)においては、日本に「近代文学」が始まる以前に存在し、近代に入ってから江戸戯作文学の残滓として無視されていた言語表現の諸相を検討して、その表現実態を明らかにしました。博士号取得の業績となった『「小説」論－『小説神髓』と近代』(平成11年)では、坪内逍遙が学生時代に手

にした可能性の高い英語圏の修辞書における小説についての記述や、西欧の19世紀の実作者の小説作法書とを比較し、『小説神髓』の世界的同時性を論じました。『明治文学史』(平成12年)では、日本の明治期の小説とその文体について、読者や作者、文体、物語構造がどのように絡み合いながら変化していったかについて分析しました。『日本人の「翻訳」－言語資本の形成をめぐる』(平成26年)では、幕末から明治期にかけての「翻訳」を通して、日本語の文体がどのようにして形成されたのかを豊富な事例から浮き彫りにしました。

このように、亀井先生は、長期にわたる研究・教育活動を通して、国内外において、日本近代文学研究の発展に多大な功績を残されました。

先生の御霊が安らかでありますよう、ご冥福を心より祈念いたします。

(文学研究科・文学部)

## 編集メモ

---

●夏の日差しが眩しく感じられ、青空に緑が映える季節となりました。

●インフォメーションセンター「エルムの森」では、本学で実施している様々な研究の一端を紹介する企画展示

を行っています。

2ヶ月ごとに展示は入れ替えておりますので、お立ち寄りの際はぜひご覧ください。



2015.7.10 室蘭本線 礼文～小幌（豊浦町）

## 北の鉄道風景 40 噴火湾

内浦湾は、渡島半島によって、その三方が囲まれた湾である。その沿岸に有珠山や駒ヶ岳などの活火山があることに加えて、火山の火口跡（カルデラ）を連想させるような円形の湾であることから、江戸時代に此処を訪れた外国船の船長が「Volcano Bay」と発言し、それを端緒として、「噴火湾」の別称が生まれたという。一方で、この湾の地形が生成された過程において、火山の噴火活動は無関係であり、

偶々、カルデラを連想させる地形になっただけのようだ。写真は夕暮れの噴火湾と、その彼方にうすがる駒ヶ岳を背景に駆ける「北斗星」、上野行きである。夕暮れの噴火湾沿いを夜行列車が往く風景が消え去って、間もなく1年が過ぎようとしている。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑦ No.748 平成28年7月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html